

1

HOME'S総研
オリジナル調査

センシュアス・シティ 調査

—動詞で評価する
センシュアス・シティ・ランキング—

株式会社アンド・ディ 取締役

橋口理文

東京大学経済学部卒業後、石油化学関連の人事・企画を経てリサーチ会社に入社。
主に新規事業関連企業のマーケティングリサーチを担当。
退社後、2004年にマーケティング・リサーチコンシェルジェ（株）アンド・ディを設立。

奥田 理

東京大学経済学部卒業後、都市銀行を経てコンサルティング業界に転職。
業務改善や事業見直しプロジェクト、PFI手法可能性調査、金融業界の市場調査などに従事。
2013年3月より、（株）アンド・ディに入社し、調査分析を担当。

都市評価方法の概観

先行調査レビュー

本調査の大きな目的や動機については、別項で説明した。

その考え方に沿って調査設計を行う際に、都市や居住エリアを評価・測定した
先行研究のレビューを行った。ここではそのポイントをまとめておきたい。

■ 3つの民間企業による「都市評価」レポート

「都市を評価する」というテーマで、その結果が広く知られている本格的なレポートとして、週刊東洋経済が毎年発表している『住みよさランキング』、株式会社リクルート住まいカンパニーが毎年発表している『みんなが選んだ住みたい街ランキング』、株式会社ネクストの『東京都内生活者実感ランキング』がある。

週刊東洋経済の『住みよさランキング』は、全国790都市および東京23区を対象（2014年版）とし、それらを各分野の公式統計を用いて評価したものであり、2011年を除き、過去22回の発表実績がある。3年連続でトップになった印西市（千葉県）や、2014年度にランクを上げた坂井市（福井県）など、その都道府県以外の生活者には馴染みの薄い都市がランキング上位を占め、話題を呼んだ。

これに対して、株式会社リクルート住まいカンパニーの『みんなが選んだ住みたい街ランキング』は、関東1都4県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）、関西2府4県（大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県）、愛知県に居住する人々に、それぞれのエリアにおける駅と行政区について、居住したいところを3つまで質問したものである。2015年版で4回目を数えるが、関東においては、調査開始以来、「吉祥寺駅」がトップを維持しており、発表のたびにマスコミ等に取り上げられ、話題となる。

最後の株式会社ネクストの『東京都内生活者実感ランキング』は、東京都内、およびサンプル数の確保（150サンプル以上）が可能だった市区部のみではあるが、実際にそ

の街に住む人々に、その住んでいる街を評価してもらうものである。「日常の買い物充実度」や「自治体公共サービスの充実度」などの9つのカテゴリ、合計39項目について5段階評価を行い、カテゴリごとの平均値を合計した値でランキングを算出している。ちなみに、最新の2013年度版でのトップは、吉祥寺を擁する「武蔵野市」となっている。その3つのレポートで我々が注目したのは、調査方法とランキング算出方法である。

週刊東洋経済の『住みよさランキング』は、そこに住む人々の評価は一切採用しないかわりに、エリアごとの客観的な統計データに依拠する。加えて、幸福度のような総合指標も設定せず、各統計データを偏差値化し、積み上げる方法を採用。これに対して株式会社リクルート住まいカンパニーの『みんなが選んだ住みたい街ランキング』は、他エリアと比較可能な統計データは一切使用せず、生活者の意識データのみでランキングを構成している。

株式会社ネクストの『東京都内生活者実感ランキング』も、客観的な統計データは一切使用せず、生活者の意識データを扱う点で、株式会社リクルート住まいカンパニーの『みんなが選んだ住みたい街ランキング』と同じ系譜だ。唯一、「その街に住んでいる人の、その街に対する実際の評価」である点が異なっている。瑣末な違いだが、150サンプルを確保できない市区部が除外されており、分析対象都市は23区19市にとどまる。

3つの調査の調査方法、ランキング算出方法の違いは、

まず、客観的なデータを用いるのか（週刊東洋経済）、主観的なデータを用いるか（株式会社リクルート住まいカンパニー、株式会社ネクスト）という点にある。

もう少し丁寧に考えると、データ採取方法によって、観測データと申告データの2種類があることに気づく。同じ事実を表現するデータであっても、下水道整備率や犯罪発生率のように、一定の共通基準で誰もが測定可能な「観測データ」と、回答者の自己申告によって初めて得られる「申告データ」（例えば、一定期間内の美容サロン利用経験率や、大学中退率など）に分かれるのである。

つまり、客観↔主観という軸に、観測↔申告という

軸を加えた4つの象限で調査タイプを分けることが可能になる。

週刊東洋経済の『住みよさランキング』は、客観×観測データであり、株式会社リクルート住まいカンパニーの『みんなが選んだ住みたい街ランキング』は、主観×申告データである。（図1）

冒頭でも記したように、今回の調査では、「そのエリアに住む人々の「経験」を積み上げること」が主題だった。その観点からいえば、図1で空いている左下の象限、つまり「客観×申告データ」の領域に、調査および選択肢の中心をおかなければならない。（図2）

図1：3つの代表的な都市評価調査のポジション

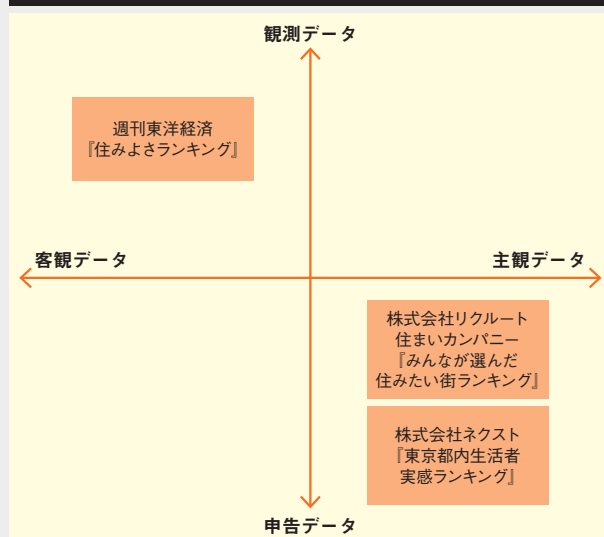
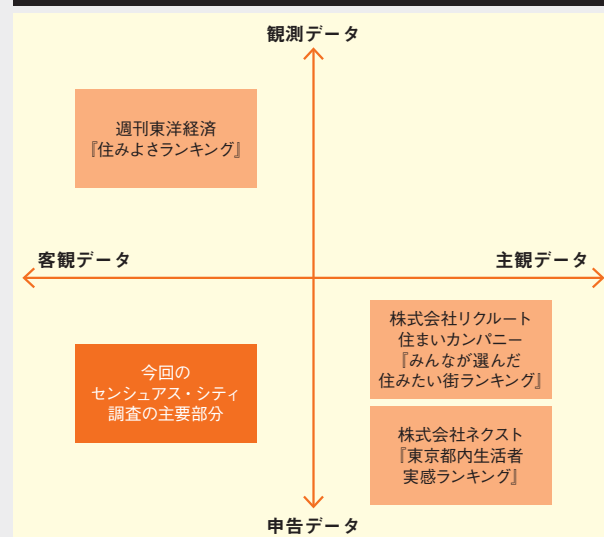


図2：センシュアス・シティ調査のポジション



【参考】地域ブランドの視点

都道府県や市町村を、主に認知度、魅力度など、ブランドの観点から評価する調査として、株式会社ブランド総合研究所が毎年発表する『地域ブランド調査』がある。読者ターゲットが絞られていることもあり、上記3つの調査ほど知られているわけではないが、2006年にスタートし、2014年版で9回目を迎えている。市町村の魅力度ランキングで「函館市」がトップになるなど、興味深い結果が提示されているが、ここではデータ採取の方法を中心に簡単に紹介する。

『地域ブランド調査2014』の調査対象エリアは、全国790市、東京23区、地域ブランドへの取り組みに熱心な187の町村の計1000エリアと、47都道府県。調査対象者は全国の20

～60代3万1433人、調査方法はインターネット調査である。分析においては、年齢、性別、居住地でウエイトバックを行っている。

ランキングは、そのエリアの「魅力度」を「外から」評価した数値をベースにしている。公表されている資料では、そのスコア算出方法は明確ではないが、株式会社リクルート住まいカンパニーの『みんなが選んだ住みたい街ランキング』と同型の調査である。つまり、居住していない（「外からの視点」）エリアについての主観×申告データをもとにランキングを行っている。「住んでみたいか」と質問する代わりに、「魅力的か」と質問していると考えればよい。

■ 「都市評価」と「幸福論」

今回の調査の中心を「客観×申告データ」におくとはいえ、何らかの主観データとしての総合指標も欲しい。経験の積み上げによる評価が、総合評価とどのように関係しているかを検証したいという目論みもあったが、何より、「この街に住んでよかったな」、「ずっと住み続けたいな」という感情は、具体的なエピソードを伴うという、素朴な経験則をデータ化することが、今回のプロジェクトの目的に合っていると考えたからである。

その考え方の整理も兼ねて、過去に数多く上梓され、各政府機関、シンクタンクからも研究レポートが多数出されている「幸福論」についてもレビューしていった。

結論からいえば、個々の「幸福論」の枠組みはさまざまであるが、こと生活者調査における総合指標は、「幸福度」と「満足度」に集約される。本調査でも、この代表的2指標を採用した。

そもそも、「都市評価」と「幸福論」とは異なる分野だが、両者の関係が深いことはつとに指摘されている（例えば広井良典氏の論文『地域の幸福とは—コミュニティと創造的福祉社会』／『あたたかい地域社会を築くための指標—荒川区民総幸福度』所収）参照）。住むことについての評価が、幸せにとって大きな要因であることは、自らを素朴に振り返っても妥当なことだろう。

「その場所で生活すること・住むことの幸福度」を評価する試みは、総務省を中心とする政府、建築分野を中心とするアカデリズム、地方自治体、民間企業の総研部門で

数多く実施されてきた。昨今よく目にする幸福論の発端は、言うまでもなく2000年代に起こったブータン・ブームだが、既に1974年には、経済的指標の追求だけでは国民の幸福は達成されないという考え方から、「社会指標（SI）」が実施されている。

その後も、ほぼ10年おきに経済指標のみに頼らない指標開発の試みは続くが（図3）、その最新版が、民主党政権下で行われた『幸福度に関する研究会』による、『幸福度に関する研究会報告—幸福度指標試案—』（2011年12月）としてまとめられている。

実際の測定は行われず、基本的な考え方と測定項目の詳細について指針を示したものであるが、ブータンのGNH（Gross National Happiness, 国民総幸福量）だけでなく、フランスの「経済パフォーマンス及び社会進歩の計測に関する委員会」（いわゆる「スティグリッツ委員会」）の動向など、世界の幸福度調査の流れを踏まえている。具体的には、「持続可能性」を幸福度指標に加えるなど、より社会的な指標を組み込んだ部分が新しい。（図4）

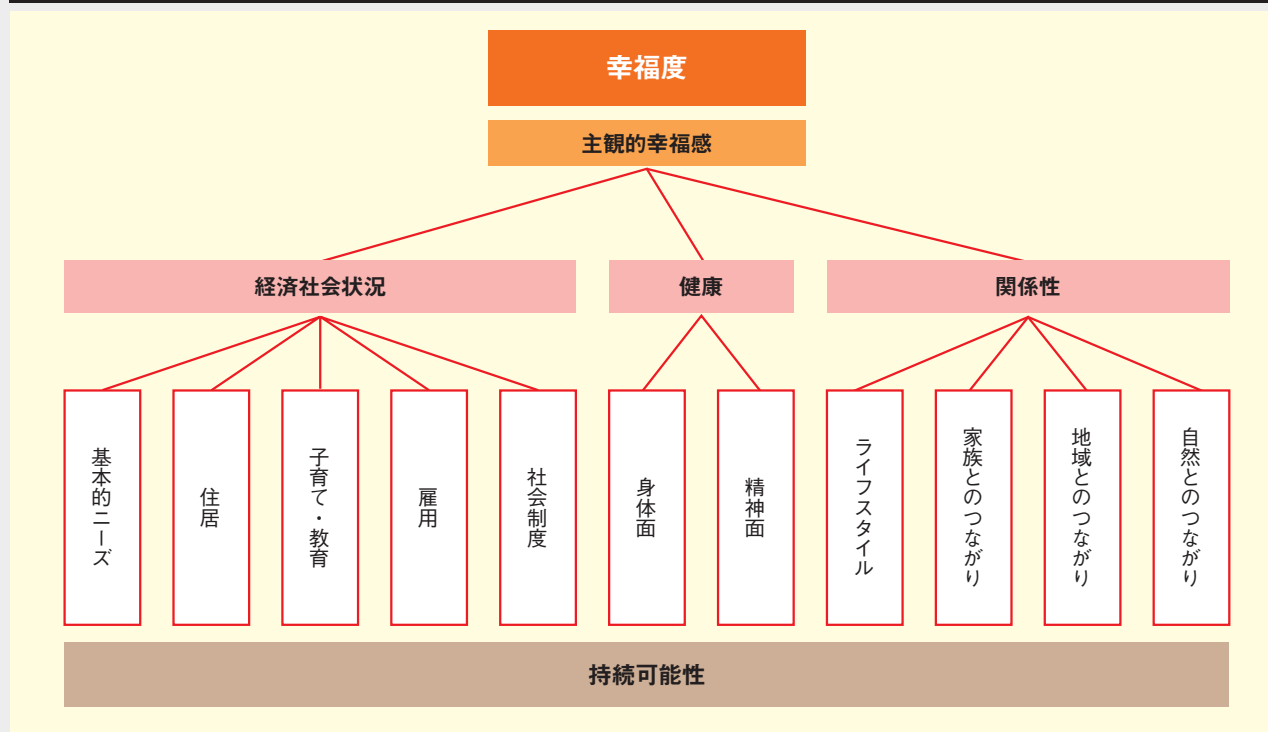
我々の問題意識に照らして測定項目の詳細をみると、国民の主観的な幸福指標が重視されていることが特徴である。スティグリッツ委員会もまた、「主観的・客観的幸福度の計測は生活の質に関する重要な情報であり、調査に質問を組み込むべき」と主張している。

図3：主な指標化の取組み

	社会指標 (SI)	国民生活指標 (NSI)	新国民生活指標 (PLI) (豊かさ指標)	暮らしの改革指標 (LRI)
実施年	1974-84	1986-1990	1992-1999	2002-2005
目的	公害や人口集中など、高度成長の負の効果が明らかになり、貨幣的指標への過度の依存から転換する時であると判断された。	高度成長期の終了とともに高い生活水準や価値観の変化に伴って生活の多様化を図る必要があった。	80年代後半、人々は豊かさを求めるようになり、そのための指標を開発する必要があった。特に東京への人口集中によって地域の違いをとらえる必要が出てきた。	豊かさを實現する国民の視点に立って、構造改革を見ていく必要があった。
主な特徴	非貨幣的指標が中心、価値規範指標が含まれていた。指標は全国レベルのみ。	個人の効用により焦点を当てた。主観的指標とともに国際比較可能な指標を追加した。採用した指標の総数は減らされた。	個人の視点から分野を設定。構造は活動とその成果から組み立てられた。地域の指標を導入。	目標は国民の視点から設定。
指標の構造	社会目標：10分野 根源的な社会的課題：27 副次的課題：77 下位課題：188 採用指標数：261 (1979年に更新)	①生活分野：8 採用指標数51（うち、国際比較に33） ②主観的指標：11 ③課題分野：6 採用指標53	活動分野：8 生活上の価値：4 採用指標数：170（うち、地域別に139を利用）	構造改革の目標：9分野 採用指標数：41指標 主観的幸福度指標（アンケート調査結果を活用）：1指標
計算方法	基準年を100とした単純平均	①変化率または分散により各指標を標準化 ②分野内は標準化した指標の単純平均	①変化率または分散により各指標を標準化。 ②分野内は標準化した指標の単純平均。ただし、地域別指標は主観的満足度を使ってウエイト付けを行った。	①変化率により各指標を標準化 ②分野内は標準化した指標の単純平均。

※「我が国における指標化の取組み」（「第1回幸福度に関する研究会」資料）をもとに、加筆・修正。

図4：幸福度指標試案（2011年12月）



■ 地方自治体主導の幸福度調査

一方、2010年前後から、国ではなく、地方自治体のレベルで住民の幸福度調査や指標化を独自に実施するところが増えている。東京都荒川区、新潟県、熊本県などの取り組みが、各研究機関やマスコミ等で取り上げられることが多いが、荒川区の「荒川区民総幸福度（GAH=Gross Arakawa Happiness）」は、その基本的理念、運用の仕方、そして調査方法の点で注目されている。

まず、「区政は区民を幸せにするシステムである」という基本的考え方があり、そのKPI（Key Performance Indicator, 重要業績評価指標）として区民の主観的な幸福度を測定し、幸福度を上げるための措置を取る。さらにその成果を測定していくという、PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルを念頭においている点が目を引く。

既に2014年10月には第1回目の『荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査』を実施、2015年7月には第2回目も実施しており、データの蓄積が進んでいる。

具体的な質問構成は、まず「あなたは幸せだと感じますか」という総合指標について、「まったく感じない」から「大いに感じる」までの5段階で主観的評価を問う。次に、「健

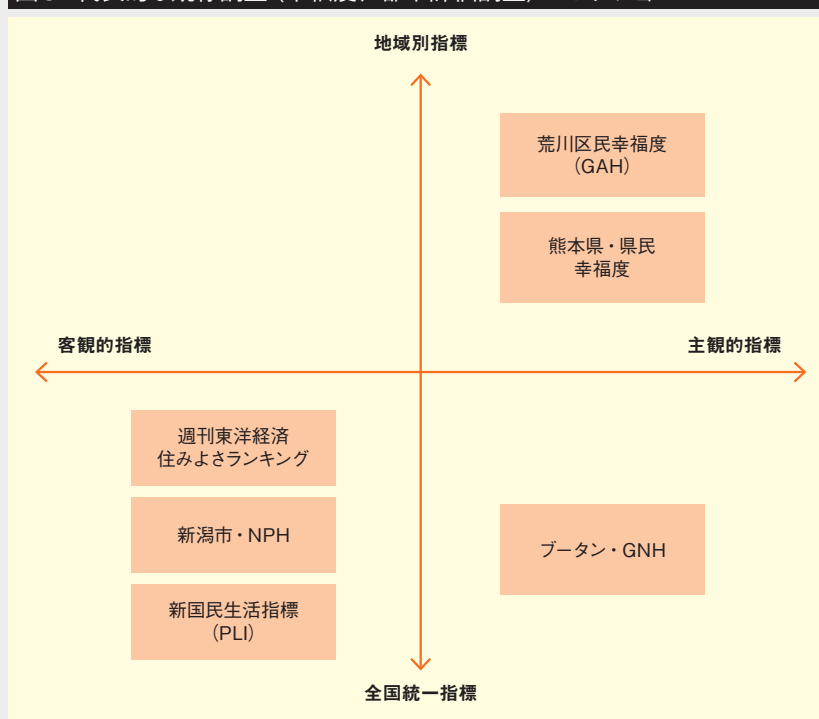
康・福祉」、「子育て・教育」、「産業」、「環境」、「文化」、「安全・安心」の6つの分野を設定し、それぞれ「健康の実感」、「子どもの成長の実感」などの上位指標について質問する。さらに6つの分野ごとに下位指標を39項目設定し、測定する（いずれも5段階の主観的評価データ）。

上位指標を上げるために、下位指標の「主観×申告データ」と「客観×測定データ」（例えば「公園/人口比率」など）を組み合わせ、その関係性を分析するフレームが際立っているが、そのプロセスに区の職員だけでなく、広く区民を巻き込んでいく展望もあり、力強い。

熊本県の『県民総幸福量（AKH）に関する調査』も、おおそ同様の考え方に基づく。これに対して、新潟県の『NPH（Net Personal Happiness）』は、客観×測定データのみで構成されている。

名寄市立大学の清水池義治、吉中季子の各氏は、それらの指標を以下のような見通しのよいポジショニング・マップ（図5）に整理している（研究報告『地域政策における「幸福度」指標の活用』）。

図5：代表的な既存調査（幸福度、都市評価調査）のポジション



■ 幸福度レビューのまとめ－調査方法・データ形式の観点から

我々の問題意識である「評価方法」に即して、これらの「幸福論」、「幸福度調査」を概観すると、その方法は、ほとんどが客観×観測データを中心としていることに気づく。「幸福度に関する研究会」報告書の中でこそ、主観×申告データの重要性が指摘されているが、現実には評価が行われたわけではない。

また、荒川区の『荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査』の中心は、主観×申告データであり、今回の我々の調査の一部や、『みんなが選んだ住みたい街ランキング』（株式会社リクルート住まいカンパニー）、『東京都内生活者実感ランキング』（株式会社ネクスト）と近いが、実際に街で何が起きているのか、住民が何をしているのかについてのデータ（「客観×申告データ」）ではない。

考えてみれば、都市間競争（都市同士の人材の奪い合い）という観点から、独自の都市評価指標を提案し、我々も大いに着目したりリチャード・フロリダも、採用した基礎指標－

例えば「ゲイ指数」－の斬新さ、ネーミングの奇抜さに目を奪われがちだが、これらもすべて客観×観測データであった（もちろん、「ゲイ指数」を、多様性や寛容さを“象徴する”KPIとして見出した直感や、その検証結果には驚くべきものがあるし、2015年春に発表された東京都渋谷区の同性パートナーシップ条例にも大きな影響を与えているだろう）。

しかし、リチャード・フロリダの近著『新クリエイティブ資本論』では、生活者調査の必要性にも言及し、今後何らかの主観データを採用することが示唆されているのである。

これらの事実は、客観×観測データ一本槍だった都市評価、もしくは幸福度評価において、主観データ、あるいは客観×申告データへの志向を示しているといえるのではないだろうか。しかし、本プロジェクトのスタート時点では、都市評価において「客観×申告データ」を主軸として採用したものは、ほぼなかった点を指摘しておきたいと思う。

【参考】 グローバルな都市間競争の視点

都市間競争の観点から、世界的な規模で実施している調査に、一般財団法人森記念財団が実施している『世界の都市総合力ランキング』がある。

2008年から毎年実施・公表されており、『世界の都市総合力ランキング2014』では、世界40都市を「経済」、「研究・開発」、「文化・交流」、「居住」、「環境」、「交通・アクセス」の6分野で評価し、比較している。因みに、2014年版では前年に引き続き、ロンドンが総合1位。東京はパリに次ぐ4位にランクされている。

6つの各分野の評価指標は、「経済」であれば「GDP成長率」、「研究・開発」であれば「産業財産権（特許）の登録数」など、合計70指標で構成されている。公表データでは詳らかにされていないが、世界的に比較することが目的であるため、客観×観測データをベースとしている。その意味で、週刊東洋経済の『住みよさランキング』と同型である。

興味深いのは、『世界の都市総合力ランキング2014』で、「都市の感性価値」というコンセプトと、そのデータも加えた新しいランキングを登場させたことである。自らの70指標を評して、「これらの指標の多くは、都市の魅力を物質的な基準で評価し

ている。（中略）しかし、都市の魅力は必ずしもこのような物質的な価値のみによって、生み出されるものではない」（同レポート概要版）と述べ、新たに、「効率」、「正確・迅速」、「安全・安心」、「多様」、「ホスピタリティ」、「新陳代謝」という6つの要素・40の指標を新設している。その40指標には、例えば「住民の親切さ」のような、アンケートによるデータも多数採用されているのである。

新しいランキングでは、東京がパリを抜いて3位に上昇するなど、結果自体も面白いのだが、都市の魅力を測定するために「非物質的な価値」（同レポート概要版）に着目した点、そして主観×申告データを採用した点において、示唆に富むレポートとなっている。

なお、上記の先行調査・研究のレビューを経て、調査項目および選択肢を策定したが、さらに慎重に検討するため、（次項で説明する）本調査を実施する前に、全国6都市600サンプルを対象にプレ調査を実施した。そこで得られた都市の「体験」に関するデータを因子分析にかけ、生活者の視点での「意味のまとめり」を統計的に確認しながら、選択肢の修正・追加を行ったことを付記しておく。

センシュアス・シティ調査の 調査概要

■ 調査方法：インターネット調査

※株式会社マーケティングアプリケーションズのインターネット・リサーチパネルを利用

■ 調査対象

全国の都道府県庁所在都市、および左記以外の政令指定都市に居住する20～64歳までの男女1万8300名。

■ 調査対象の区分と回収サンプル数設定

▽原則として、以下の3都市を除き、各都市200サンプルを回収した。

▽東京都、大阪市、および調査対象年齢の人口が200万人を超える横浜市については、調査対象エリアを区レベルまで細分化した。具体的には、四捨五入した20～64歳の人口が5万人以上の区を調査対象とし、各市区部で100サンプルを回収するよう設定した。

※東京都の場合、同人口が5万人未満の市町村を、「東京都その他」として1つにまとめた。なお、東京都千代田区は同人口が5万人に満たないが、特別に調査対象エリアに含めている。

※大阪市は、同人口5万人未満の5つの区について、距離的な近さをもとに2つのグループに統合した（天王寺区・浪速区・大正区グループと福島区・此花区グループ）。

※横浜市はすべての区部の同人口が5万人以上であるため、そのまま調査対象とした

▽結果として、図6の134市区部を今回の調査対象とした。

▽回収サンプル数は1万8300サンプルである。

■ 調査実施時期：2015年3月23日（月）～3月29日（日）

■ 調査実施機関：株式会社アンド・ディ

■ ウェイトバックについて

▽今回の調査分析では、2種類のウェイトバック係数を用いて、都市規模および人口構成比を現実調整している。

▽ウェイトバック係数Aは、今回の調査対象市区部それぞれの性・年代別の人口規模を反映した係数である。サンプル全体を対象とする基礎分析に用いた。

▽ウェイトバック係数Bは、各市区部のサンプル数を同数とおき、そのうえで各市区部の性・年代別の実際の比率を反映するための係数である。各市区部の調査数が同数であるため、市区部合計スコアを基に、ランキング等、都市間比較の分析に用いた。

※それぞれのウェイトバック係数は、平成22年度国勢調査に基づき算出した。

※なお、ウェイトバック係数を掛けたため、本レポート中の各セグメントの調査数を合算しても全体の調査数にはならないケースがある。

図6：調査対象都道府県・市区一覧

都道府県		調査対象都市区	20～64歳 人口合計	回収 サンプル数	都道府県		調査対象都市区	20～64歳 人口合計	回収 サンプル数	
北海道		1 札幌市	1,199,416	200	新潟県		79 新潟市	475,637	200	
青森県		2 青森市	175,215	200	富山県		80 富山市	241,505	200	
岩手県		3 盛岡市	176,148	200	石川県		81 金沢市	273,991	200	
宮城県		4 仙台市	646,808	200	福井県		82 福井市	148,124	200	
秋田県		5 秋田市	189,355	200	山梨県		83 甲府市	112,788	200	
山形県		6 山形市	144,871	200	長野県		84 長野市	214,466	200	
福島県		7 福島市	165,816	200	岐阜県		85 岐阜市	235,752	200	
茨城県		8 水戸市	156,778	200	静岡県		86 静岡市	412,388	200	
栃木県		9 宇都宮市	308,914	200			※ 87 浜松市	463,421	200	
群馬県		10 前橋市	196,080	200	愛知県		88 名古屋市	1,360,565	200	
埼玉県		11 さいたま市	752,112	200	三重県		89 津市	161,577	200	
千葉県		12 千葉市	563,906	200	滋賀県		90 大津市	198,879	200	
東京都	東京23区	13 千代田区	31,226	100	京都府		91 京都市	863,367	200	
		14 中央区	87,361	100	大阪府		92 平野区	112,596	100	
		15 港区	139,284	100			93 淀川区	111,423	100	
		16 新宿区	221,390	100			94 東淀川区	110,824	100	
		17 文京区	136,126	100			95 城東区	100,272	100	
		18 台東区	111,610	100			96 住吉区	90,817	100	
		19 墨田区	159,554	100			97 生野区	76,833	100	
		20 江東区	301,335	100			98 住之江区	76,213	100	
		21 品川区	243,238	100			99 東住吉区	74,811	100	
		22 目黒区	176,931	100			100 北区	74,760	100	
		23 大田区	445,269	100			101 西成区	65,769	100	
		24 世田谷区	582,562	100			102 鶴見区	65,421	100	
		25 渋谷区	137,017	100			103 都島区	64,998	100	
		26 中野区	213,977	100			104 阿倍野区	62,214	100	
		27 杉並区	303,847	100			105 西淀川区	58,629	100	
		28 豊島区	195,155	100			106 西区	59,265	100	
		29 北区	208,977	100			107 中央区	57,104	100	
		30 荒川区	126,400	100			108 旭区	53,462	100	
		31 板橋区	334,408	100			109 港区	50,971	100	
		32 練馬区	456,555	100			110 東成区	48,644	100	
		33 足立区	415,183	100			111 福島区	43,469	100	
		34 葛飾区	272,789	100	此花区	38,961	100			
		35 江戸川区	424,001	100	天王寺区	43,630	100			
		東京都	東京23区以外市部	36 八王子市	349,017	100	112 浪速区	42,186	100	
				37 町田市	254,284	100	大正区	40,013	100	
				38 府中市	161,482	100	※ 113 堺市	492,568	200	
				39 調布市	142,263	100	兵庫県	114 神戸市	907,700	200
				40 西東京市	122,626	100	奈良県	115 奈良市	212,672	200
				41 三鷹市	121,350	100	和歌山県	116 和歌山市	207,919	200
				42 小平市	113,663	100	鳥取県	117 鳥取市	113,727	200
				43 立川市	110,974	100	島根県	118 松江市	107,833	200
				44 日野市	109,251	100	岡山県	119 岡山市	414,637	200
				45 多摩市	91,918	100	広島県	120 広島市	698,643	200
				46 東村山市	91,496	100	山口県	121 山口市	111,503	200
				47 武蔵野市	90,397	100	徳島県	122 徳島市	152,158	200
48 青梅市	81,960			100	香川県	123 高松市	237,163	200		
49 国分寺市	76,683			100	愛媛県	124 松山市	302,571	200		
50 小金井市	76,188			100	高知県	125 高知市	195,860	200		
51 東久留米市	68,204			100	福岡県	※ 126 北九州市	552,966	200		
52 昭島市	69,083			100		127 福岡市	921,249	200		
53 稲城市	52,644			100	佐賀県	128 佐賀市	134,249	200		
54 東大和市	49,270			100	長崎県	129 長崎市	252,829	200		
55 狛江市	49,121			100	熊本県	130 熊本市	428,060	200		
56 あきる野市	46,121	100	大分県	131 大分市	282,250	200				
57 国立市	47,447	100	宮崎県	132 宮崎市	233,158	200				
神奈川県	横浜市	58 清瀬市	42,455	100	鹿児島県	133 鹿児島市	355,208	200		
		武蔵村山市	41,036		沖縄県	134 那覇市	186,988	200		
		福生市	37,268							
		羽村市	34,680							
		59 鶴見区	174,392	100	※「20～64歳人口」は「平成22年国勢調査」より。 ※58の東京都23区外市部は、ここに西多摩郡等、 その他の郡部も含み、「東京都その他」と表記。 ※表中、※をつけた都市は、政令指定都市のうち、 都道府県庁所在地都市以外の都市。					
		60 神奈川区	151,136	100						
		61 西区	63,138	100						
		62 中区	88,832	100						
		63 南区	121,160	100						
		64 保土ヶ谷区	124,825	100						
		65 磯子区	98,527	100						
		66 金沢区	125,664	100						
		67 港北区	217,539	100						
		68 戸塚区	166,435	100						
		69 港南区	133,875	100						
		70 旭区	146,351	100						
		71 緑区	108,524	100						
		72 瀬谷区	73,510	100						
		73 栄区	72,506	100						
		74 泉区	90,928	100						
		75 青葉区	192,011	100						
		76 都筑区	122,870	100						
		77 川崎市	926,589	200						
		※	78 相模原市	444,189	200					

3

センシュアス・シティ調査の分析 結果概要

はじめに、総合指標の都市規模別の結果をまとめたい。いずれもウエイトバック係数Aを用いており、人口の多寡の要素を反映しているものになる。

今回の調査の大きな目的は、都市の官能的な体験の実相を都市別にみていくという点にあることは別項で述べた。最初に、そのエリアに住む人々が幸せに暮らせているか、生活に満足しているか、という主観データの結果をみていく。「幸福論」は数多く上梓され、各政府機関、シンクタンクからも研究レポートが多数出されている。その枠組みもさまざまだが、こと生活者調査における総合指標は、「幸福度」

と「満足度」に集約される。本調査でも、この代表的2指標を採用した。この総合指標と、都市の官能的な体験との相関は後にみるが、ここでは基本的な属性別にその水準を把握する。なお、一口に「幸福度」と言っても、各調査における質問のしかたが微妙に異なる点には注意を要する。本調査では、「住むこと・暮らすこと」に照準を絞っているため、「あなたは、いまの地域に住んでどの程度幸せを感じていますか」と問いかけた。回答方法は0点から10点までの1点刻みの数値を記入してもらった。

3-1

基礎分析

1 幸福度

幸福度の平均点は6.80。これを都市規模別にみると、規模が大きいほど平均評価点が高い。

得点分布も、規模が大きいほど高い得点のシェアが高くなっている。

図7

■ 総合評価①幸福度(全体／単一回答)

Q.あなたは、いまの地域に住んでどの程度幸せを感じていますか。「とても幸せだ」を10点、「まったく幸せではない」を0点とした場合、何点くらいになるかをお答えください。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。

			とても幸せだ (10点)	9点	8点	7点	6点	5点	1～4点	まったく幸せで はない(0点)	平均評価点
● 凡例											
全体 (n=18300)			7.0%	8.4	26.5	22.1	12.1	14.5	7.5	1.9	6.80
都市人口規模別	東京23区 (n=3386)		7.4	9.0	31.6	20.2	10.6	13.5	5.8	1.8	6.97
	東京23区以外100万人以上都市 (n=8713)		7.2	9.4	26.4	22.3	12.5	13.8	6.8	1.7	6.88
	100万人未満50万人以上都市 (n=3099)		6.7	6.8	24.1	24.0	11.7	15.6	9.0	2.0	6.65
	50万人未満都市 (n=3102)		6.1	6.8	23.5	22.0	12.9	16.6	9.7	2.4	6.53

2 満足度

同様に「満足度」をみる。質問文は、「あなたはお住まいの地域にどの程度満足していますか」であり、「住むこと・暮らすこと」を念頭においている点は「幸福度」と同じである。回答方法も「幸福度」に準じる。

平均評価点は6.75であり、「幸福度」とほとんど同じ水準である。都市規模が大きくなるほどスコアが上昇する点は、「幸福度」と同じ傾向である。

図 8

■ 総合評価②満足度(全体／単一回答)

Q.あなたはお住まいの地域にどの程度満足していますか。「非常に満足している」を10点、「まったく満足していない」を0点とした場合、何点くらいになるかをお答えください。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。

		非常に満足している(10点)	9点	8点	7点	6点	5点	1～4点	まったく満足していない(0点)	平均評価点
● 凡例										
全体 (n=18300)		6.8%	8.6	25.9	21.1	12.4	15.2	8.0	2.0	6.75
都市人口規模別	東京23区 (n=3386)	7.6	10.1	30.8	18.7	11.0	14.7	5.3	1.8	6.99
	東京23区以外100万人以上都市 (n=8713)	7.1	9.2	25.6	22.1	12.4	14.4	7.5	1.8	6.82
	100万人未満50万人以上都市 (n=3099)	5.9	7.3	24.7	21.3	13.2	15.8	9.8	2.0	6.59
	50万人未満都市 (n=3102)	6.2	6.5	22.8	20.6	13.1	17.3	10.8	2.7	6.44

3 WHO-5 指標

「幸福度」、「満足度」とは少し毛色の変った質問項目も設定している。

「WHO-5」は、世界保健機関により開発された精神健康状態を測定する簡易指標である。その妥当性や運用方法について、主に公衆衛生の分野で精緻な検証が行われているが、今回の調査では、その選択肢を「都市生活者のご機嫌度」を示すものとしてとらえ、参考まで設定した。具体的には5つの生活上の状態を表す選択肢の当てはまり度を、5段階の期間シェアで質問している。

※実際のWHO-5の選択肢は過去2週間の状態について、6段階スケールで質問するが、今回の調査では過去1年間の状態について、5段階スケールで質問している。

図9-1は、それぞれ「半分以上の期間あてはまる」と回答した人の合計を示している。最も高いのは「落ち着いた、リラックスした気分で過ごした」であり7割を占める。低いのは「日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった」、

「意欲的で、活動的に過ごした」であるが、いずれも半数を上回っている。

都市規模別にみると、規模が大きいほどスコアが高くなる傾向がある。ただし、「明るく、楽しい気分で過ごした」、「落ち着いた、リラックスした気分で過ごした」は、「100万人未満50万人以上都市」より規模の小さい「50万人未満都市」の方が、わずかながら高い。

通常のWHO-5の分析方法にならって、各選択肢のトップボックスから5点→4点→・・・と配点し、その総合得点の「13点以上」と「13点未満」の分布も確認した。(図9-2)

「13点以上」の比率は、全体の約3分の2、64%を占める。これを都市規模別にみると、東京23区、東京23区以外100万人以上都市の「13点以上」の比率が高いが、50万人以上都市と50万人未満都市では、ほぼ同程度である。

図9-1

■ WHO-5項目【半分以上の期間・計】(全体／各単一回答)

Q.以下にあげる5つの状態は、最近1年間、どの程度ありましたか。

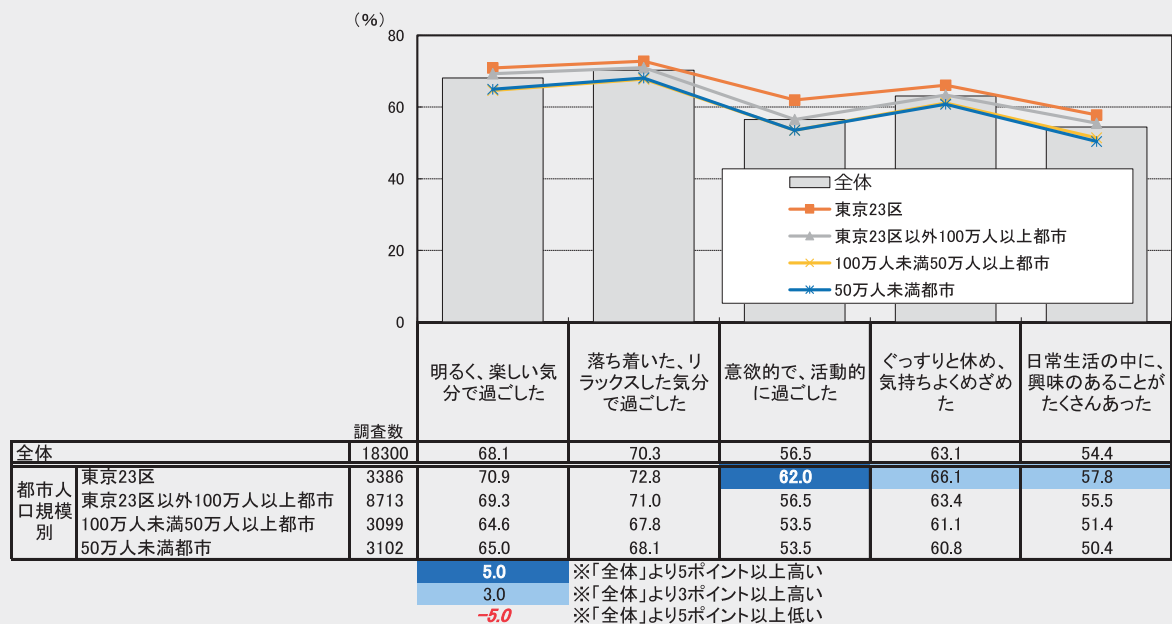
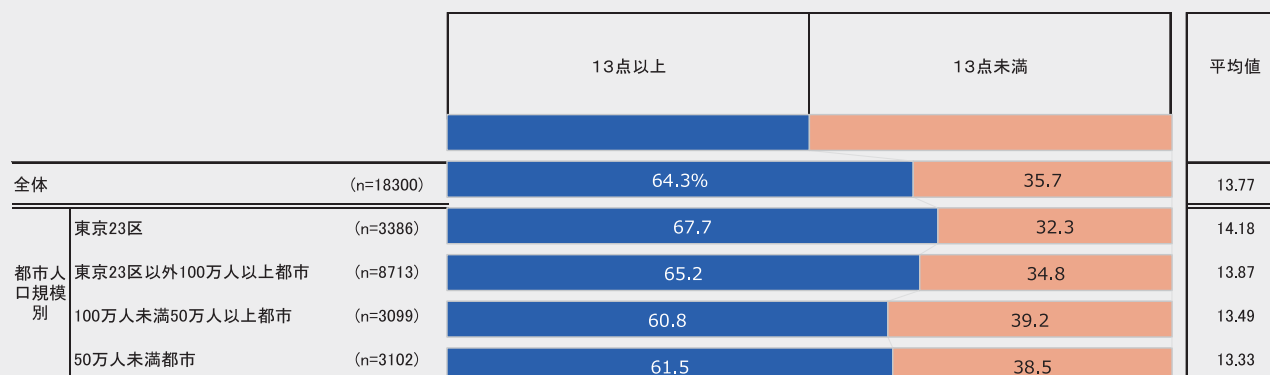


図9-2

■ WHO-5項目【合計】(全体／単一回答)

Q.以下にあげる5つの状態は、最近1年間、どの程度ありましたか。



4 寛容度

ここでは、いわゆる“少数派”の方々に対する寛容度を測定した結果を示す。特定の個性的な人々が、どの程度「住みやすいと思う」というデータである。

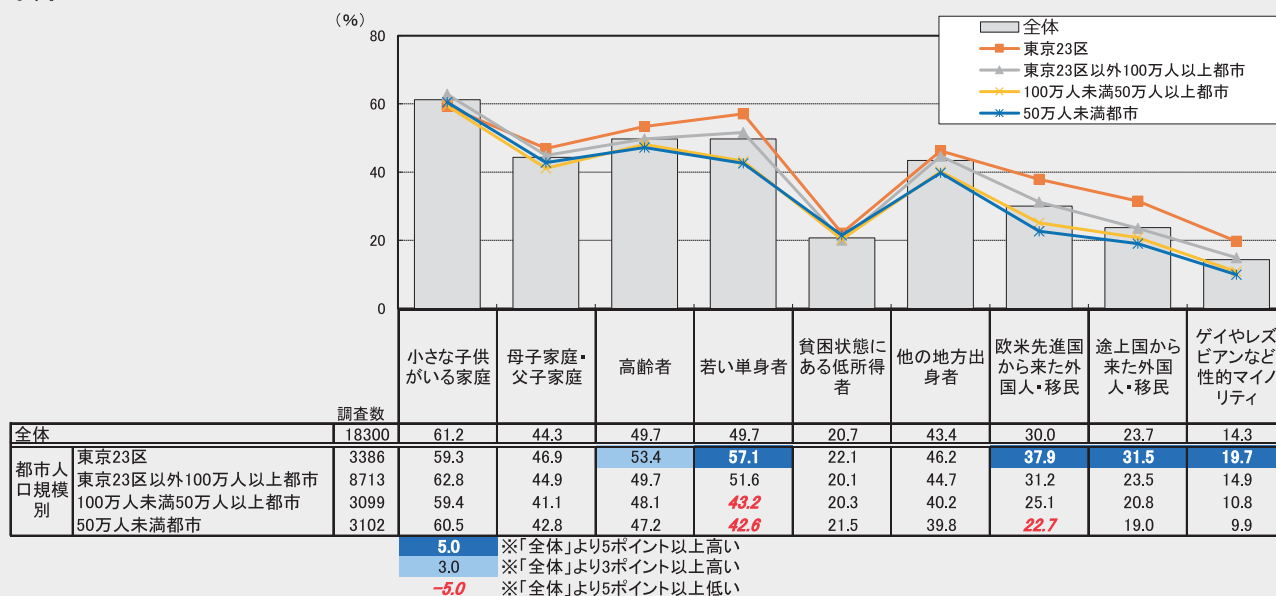
都市規模が大きいほど、「高齢者」や「若い単身者」が「住みやすいと思う・計」（「とても住みやすいと思う」＋「ある

程度住みやすいと思う」）のスコアが高くなる。また、「欧米先進国から来た外国人・移民」や「途上国から来た外国人・移民」などの外国人や、「ゲイやレズビアンなど性的マイノリティ」の「住みやすいと思う・計」も高くなっていることがわかる。

図 10

■ 多様性受容度(住みやすさ)【住みやすいと思う・計】(全体／各単一回答)

Q.あなたが暮らしている地域は、以下に上げる人々にとって、どの程度住みやすいと思いますか。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。



3-2

センシュアス・シティとは どのような都市か

1 センシュアス・シティ 上位都市の顔ぶれ

ここでは、センシュアス度によって、都市をランキングした。

すでに提示したセンシュアス指標である8カテゴリー32項目を再掲する(図11)。

センシュアス・シティ・ランキングの算出手続きは以下の通りである。ここでは、都市間を比較することから、各都市のスコアが等価となる“ウエイトバック係数B”ベースの集計データを利用した。

1 調査では、32項目それぞれについて、「どの程度の頻度で経験したか」を4段階の選択肢で尋ねている(単一回答)が、まず、回答データを得点化するために、それぞれの選択肢に対して3～0点を付与した。選択肢と配点の関係は以下の通りである。

- | | | |
|-----------------|---|----|
| 1. しょっちゅうあった | → | 3点 |
| 2. 頻繁ではないが数回あった | → | 2点 |
| 3. 1～2回あった | → | 1点 |
| 4. ほぼなかった | → | 0点 |

2 次に、ばらつきを標準化させるために、各項目の得点および各カテゴリーに対応する4項目の合計得点を偏差値化した。図では、後者の偏差値を「カテゴリー偏差値」と表現している。

3 最後に、8つのカテゴリー偏差値の単純合計を、各都市の「センシュアス度スコア」(以下、「センシュアス度」と表記)とした。

センシュアス度トップは、「文京区」という結果になった。2位の「大阪市北区」、3位の「武蔵野市」に、偏差値総計で40ポイント以上の大差をつけている。

以降、トップ10には、4位「目黒区」、6位「台東区」や、5位「大阪市西区」、7位「大阪市中央区」など、東京23区と大阪市が上位を占める中で、唯一、「金沢市」が8位に位置しているのが目を引く。

東京都は、23区のうち半数以上の13区と、「武蔵野市」

図11：センシュアス指標

■都市の行動（「都市の動詞」）	
共同体に帰属している	1 お寺や神社にお参りをした
	2 地域のボランティアやチャリティに参加した
	3 馴染みの飲み屋で店主や常連客と盛り上がった
	4 買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ
匿名性がある	5 カフェやバーで1人で自分だけの時間を楽しんだ
	6 平日の昼間から外で酒を飲んだ
	7 不倫のデートをした
	8 夜の盛り場でハメを外して遊んだ
ロマンスがある	9 デートをした
	10 ナンパした・された
	11 路上でキスした
	12 素敵な異性に見とれた
機会がある	13 刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した
	14 ためになるイベントやセミナー・市民講座に参加した
	15 コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した
	16 友人・知人のネットワークで仕事を紹介された・紹介した
食文化が豊か	17 庶民的な店でうまい料理やお酒を楽しんだ
	18 地元でとれる食材を使った料理を食べた
	19 地酒、地ビールなど地元で作られる酒を飲んだ
	20 ミシュランや食べログの評価の高いレストランで食事した
街を感じる	21 街の風景をゆっくり眺めた
	22 公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た
	23 活気ある街の喧騒を心地よく感じた
	24 商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた
自然を感じる	25 木陰で心地よい風を感じた
	26 公園や水辺で緑や水に直接ふれた
	27 美しい青空や朝焼け・夕焼けを見た
	28 空気が美味しくて深呼吸した
歩ける	29 通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた
	30 外で思い切り身体を動かして汗をかいた
	31 家族と手を繋いで歩いた
	32 遠回り、寄り道していつもは歩かない道を歩いた

を筆頭とする23区以外の6都市が、上位50都市にランクインする結果となった。同様に、大阪市は24区中(調査対象エリアは21エリア)、8つの区・エリアの名前が挙がっている。横浜市は、5つの区がランクインしているが、30位以内は13位「横浜市保土ケ谷区」、26位「横

浜市中心区」の2エリアである。東京23区、大阪市、横浜市以外に注目すると、「金沢市」以外にも、12位「静岡市」、14位「盛岡市」、17位「福岡市」、18位「仙台

市」、19位「那覇市」、23位「山形市」、24位「京都市」、32位「松江市」、34位「松山市」など、50都市中18都市を占めている。

図 11-2：センシユアス・シティ上位都市

センシユアス・シティ ランキング	センシユアス度 スコア (偏差値合計値)	共同体に 帰属 している	匿名性 がある	ロマンスが ある	機会が ある	食文化 が豊か	街を 感じる	自然を 感じる	歩ける
		偏差値	偏差値	偏差値	偏差値	偏差値	偏差値	偏差値	偏差値
1 文京区	608.0	93.1	78.2	83.9	78.9	62.9	68.6	56.4	86.1
2 大阪市北区	566.5	75.9	77.8	85.7	82.9	64.0	79.6	47.3	53.3
3 武蔵野市	550.4	63.5	63.1	76.8	65.5	64.9	81.2	66.6	68.7
4 目黒区	548.6	68.9	69.8	79.3	62.9	63.9	79.0	57.5	67.4
5 大阪市西区	530.1	62.1	80.5	65.8	75.6	61.6	72.3	59.1	53.2
6 台東区	525.9	78.1	72.4	69.2	78.1	55.6	76.3	43.8	52.4
7 大阪市中央区	525.4	62.6	79.7	76.7	73.3	60.7	67.1	42.4	62.8
8 金沢市	515.0	65.9	61.7	65.6	73.0	77.3	53.2	60.4	58.0
9 品川区	508.7	68.4	70.3	59.4	60.5	56.8	72.4	53.8	67.2
10 港区	488.6	53.9	77.3	75.3	69.3	63.9	61.3	43.9	43.9
11 千代田区	485.6	73.9	78.4	62.9	73.2	61.6	56.9	35.5	43.1
12 静岡市	483.2	62.4	56.5	55.6	60.6	66.1	57.5	59.0	65.5
13 横浜市保土ヶ谷区	479.8	64.2	71.5	51.5	65.2	61.1	55.4	51.4	59.5
14 盛岡市	479.3	62.2	58.8	58.1	59.2	69.1	55.7	60.2	56.1
15 渋谷区	475.4	51.3	65.2	66.5	70.2	55.1	70.0	43.5	53.5
16 荒川区	472.3	62.8	60.9	67.3	57.8	51.5	59.8	47.6	64.6
17 福岡市	469.1	55.4	56.4	59.3	60.2	60.9	59.1	56.3	61.6
18 仙台市	458.0	52.2	57.8	54.6	65.9	56.9	55.7	56.7	58.2
19 那覇市	457.3	53.8	54.2	55.2	58.2	74.3	53.4	52.5	55.8
20 大阪市都島区	457.0	57.1	59.1	55.5	68.2	48.6	58.9	48.7	60.8
21 八王子市	455.7	58.4	59.7	58.0	56.0	50.6	52.3	60.5	60.2
22 昭島市	455.6	58.4	56.7	56.4	51.7	59.1	55.7	59.4	58.3
23 山形市	454.9	61.7	50.4	53.9	57.8	69.7	48.7	62.2	50.4
24 京都市	448.5	60.2	50.5	56.0	53.7	58.5	56.4	53.7	59.5
25 葛飾区	446.5	63.3	53.3	57.3	56.9	51.1	59.3	48.8	56.4
26 横浜市中区	444.0	48.8	51.6	53.9	60.7	53.7	72.4	55.7	47.2
27 大阪市阿倍野区	439.1	57.0	56.9	54.9	56.4	55.2	57.6	41.0	60.1
28 江戸川区	438.1	52.4	47.7	54.4	50.5	52.3	54.1	51.8	74.8
29 大阪市福島区 + 此花区	437.2	51.5	62.0	54.6	62.2	52.2	65.9	36.4	52.4
30 青梅市	436.9	59.2	49.4	49.8	50.7	56.3	42.1	73.1	56.4
31 府中市	435.9	59.5	52.7	50.6	52.1	48.9	59.6	51.7	60.8
32 松江市	435.8	61.2	49.6	48.8	51.0	64.5	45.6	64.8	50.2
33 世田谷区	435.7	45.3	61.8	63.1	55.5	50.0	59.3	49.6	51.1
34 松山市	433.5	57.5	50.9	53.1	55.0	60.1	47.4	57.6	51.8
35 長野市	431.7	62.4	48.5	46.4	47.2	64.2	45.4	64.9	52.8
36 横浜市港北区	430.6	47.9	58.7	61.7	53.3	49.4	48.4	44.9	66.3
37 大阪市住吉区	423.6	56.4	54.3	52.0	49.5	43.3	54.2	51.8	62.0
38 新潟市	422.8	51.7	45.5	50.4	53.5	63.5	47.7	60.6	49.8
39 豊島区	422.2	43.3	63.3	63.4	55.4	47.5	63.2	36.1	50.0
40 中央区	420.7	39.8	60.5	54.1	54.9	49.0	62.6	44.1	55.7
41 横浜市鶴見区	418.8	53.5	56.7	53.7	51.3	46.2	50.2	45.0	62.1
42 宇都宮市	418.1	56.8	48.8	49.3	55.0	56.3	46.4	55.3	50.1
43 熊本市	416.3	53.6	48.3	46.6	52.7	60.2	47.3	55.3	52.2
44 高知市	415.6	51.7	51.6	45.0	45.4	64.4	46.1	60.7	50.7
45 大阪市住之江区	413.8	57.1	51.8	53.2	53.5	41.3	53.4	46.4	57.1
46 神戸市	412.6	47.1	46.6	49.3	48.3	50.0	58.1	56.4	56.9
47 あきる野市	412.6	50.0	47.5	46.0	36.7	51.1	41.7	78.1	61.7
48 奈良市	412.1	61.1	42.3	46.9	50.7	54.1	47.7	59.2	50.2
49 青森市	411.6	48.0	51.2	50.7	50.9	67.0	41.4	55.6	46.7
50 横浜市栄区	410.3	49.7	44.6	42.7	37.6	45.9	53.0	63.8	73.0

※センシユアス度スコア：右側の8つのカテゴリー偏差値の単純合計。

カテゴリー別センシuas度ランキング

次に、8つのカテゴリー別のセンシuas度ランキングをみていく。

category 1 『共同体に帰属している』

このカテゴリーでは、全体1位の「文京区」のスコアが突出して高い。4つの選択肢のうち3つがトップである。「台東区」が2位となったのも注目されるだろう。「お寺や神社にお参りをした」のスコアが「文京区」と並んで高いことが大きく寄与している。4位の「千代田区」は、「地域のボランティアやチャリティに参加した」をはじめ、各選択肢のスコアが万遍なく高く、5位の「目黒区」は「馴染みの飲み屋で店主や常連客と盛り上がった」、「買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ」のスコアが各10位以内である。

そのほか、上位の都市では、「品川区」、「葛飾区」、「荒川区」など、東京23区のエリアで全体よりも順位を上げているところが目立つ。意外、と言っては予断を持ちすぎだろうが、これら東京23区で上位にある都市は、「お寺や神社にお参りをした」、「馴染みの飲み屋で店主や常連客と盛り上がった」、「買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ」の各選択肢で上位のスコアをマークしている。全体では50位以内に入らなかった「中野区」や「新宿区」などが

上位に食い込んでいるのが好例だ。

一方で、大阪市の各区は、総じて順位を下げた。「大阪市北区」は3位であり、「大阪市住之江区」など、順位を伸ばしているエリアもあるのだが、「大阪市中央区」や「大阪市西区」、「大阪市都島区」、「大阪市阿倍野区」など、全体順位30位以内のエリアが順位を下けている。共通するのは、「買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ」の順位が低いことである。

別項で、選択肢設定の意図として、「自発的な意志による地域や人々との、いくぶん緩やかな繋がり」を念頭においたことを述べたが、その観点からは、東京23区の方が大阪市よりも共同体帰属意識の強いエリアが多いといえそうだ。

そのほか、「長野市」や「奈良市」などが、「お寺や神社にお参りをした」や「買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ」等で順位を上げ、カテゴリー上位にランクされた。

図12

センシュアス・シティ ランキング 【共同体に帰属している】				カテゴリー 偏差値	お寺や神社 にお参りをし た		地域のボラン ティアやチャリ ティに参加し た		馴染みの飲 み屋で店主 や常連客と 盛り上がった		買い物途中 で店の人や 他の客と会 話を楽しんだ	
順位	(参考) 全体順位				偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位
1	1	文京区		93.1	85.5	1	74.3	2	86.9	1	88.7	1
2	6	台東区		78.1	84.8	2	56.7	36	68.8	7	68.8	6
3	2	大阪市北区		75.9	65.0	11	57.4	33	81.7	2	79.2	2
4	11	千代田区		73.9	70.2	4	65.7	7	74.5	4	65.3	9
5	4	目黒区		68.9	60.8	17	59.4	25	75.9	3	66.0	8
6	9	品川区		68.4	58.0	24	60.2	21	65.8	12	77.4	3
7	8	金沢市		65.9	58.8	21	65.0	9	67.6	9	62.6	15
8	13	横浜市保土ヶ谷区		64.2	53.0	43	66.3	6	59.2	22	73.0	4
9	3	武蔵野市		63.5	69.3	5	52.8	50	56.2	28	57.8	29
10	25	葛飾区		63.3	55.4	33	63.0	14	68.4	8	59.7	21
11	16	荒川区		62.8	58.2	23	62.1	15	55.8	32	66.5	7
12	7	大阪市中央区		62.6	60.8	16	54.9	43	70.9	6	52.6	45
13	35	長野市		62.4	71.7	3	55.8	39	50.9	51	53.2	42
14	12	静岡市		62.4	57.3	28	67.2	5	55.9	31	62.6	14
15	14	盛岡市		62.2	55.9	31	60.5	20	64.6	13	60.6	18
16	5	大阪市西区		62.1	44.4	97	87.7	1	73.0	5	50.3	64
17	23	山形市		61.7	63.2	13	65.4	8	54.7	38	53.3	41
18	32	松江市		61.2	68.9	7	60.0	22	50.3	57	51.1	56
19	48	奈良市		61.1	67.7	9	52.9	49	43.9	96	64.0	10
20	24	京都市		60.2	68.2	8	51.4	54	51.5	46	53.7	38
21	31	府中市		59.5	63.8	12	67.8	4	51.4	47	46.3	84
22	30	青梅市		59.2	62.6	14	61.8	17	50.7	55	52.5	47
23	22	昭島市		58.4	51.0	54	59.5	24	59.9	19	60.6	19
24	21	八王子市		58.4	50.9	56	64.0	12	59.1	23	58.2	25
25	**	中野区		58.2	48.6	74	58.0	30	61.5	16	63.1	12
26	34	松山市		57.5	57.3	27	59.1	28	55.3	35	52.4	49
27	**	新宿区		57.5	61.1	15	51.1	55	46.4	76	60.9	17
28	20	大阪市都島区		57.1	57.7	26	60.6	19	59.5	21	45.5	92
29	45	大阪市住之江区		57.1	47.3	84	45.0	94	62.2	15	70.4	5
30	27	大阪市阿倍野区		57.0	56.7	29	57.3	34	57.8	25	50.7	60
31	42	宇都宮市		56.8	53.8	38	64.9	10	45.8	81	60.2	20
32	**	大津市		56.8	67.6	10	47.6	77	39.1	125	57.8	28
33	37	大阪市住吉区		56.4	69.3	6	46.0	84	55.0	36	40.0	116
34	**	大阪市港区		56.1	50.7	59	46.9	80	61.1	17	61.3	16
35	17	福岡市		55.4	59.2	20	52.5	52	49.7	58	52.5	48
36	**	浜松市		55.3	55.4	32	53.4	48	49.0	62	57.9	26
37	**	大阪市平野区		54.9	54.5	35	61.9	16	48.2	68	52.6	46
38	10	港区		53.9	45.3	92	46.1	83	65.9	11	58.3	24
39	19	那覇市		53.8	43.4	101	59.3	26	63.8	14	53.4	40
40	43	熊本市		53.6	52.6	46	48.4	72	58.8	24	51.1	55
41	41	横浜市鶴見区		53.5	56.3	30	55.3	42	48.6	66	49.6	67
42	**	甲府市		53.2	51.2	52	55.9	38	48.9	63	55.8	33
43	**	長崎市		53.2	52.4	47	49.3	67	51.7	45	56.1	32
44	**	大阪市旭区		53.0	58.0	25	36.7	119	53.9	40	53.9	36
45	**	岐阜市		52.8	50.1	65	61.6	18	47.5	73	53.2	43
46	**	小金井市		52.6	48.7	73	54.7	45	50.9	50	56.7	31
47	28	江戸川区		52.4	51.1	53	56.8	35	52.6	43	49.0	71
48	**	佐賀市		52.4	58.6	22	49.7	61	43.1	102	51.4	54
49	18	仙台市		52.2	46.3	87	57.5	32	50.9	52	57.0	30
50	**	岡山市		52.1	51.7	51	50.3	57	45.7	85	58.4	23

※カテゴリー偏差値：4項目の合計得点を偏差値化した値。

category 2 『匿名性がある』

前項『共同体に帰属している』が「緩やかな繋がり」を示すものだとすれば、『匿名性がある』は、そこからの離脱容易性を示す、逆のベクトルを持つ指標である。

ここでは、「大阪市西区」、「大阪市中央区」の大阪市の隣接する2エリアが、僅差で1、2位となった。「大阪市西区」は「カフェやバーで1人で自分だけの時間を楽しんだ」が高いのに対して、「大阪市中央区」の場合、「不倫のデートをした」が高いという違いがあるが、「平日の昼間から外で酒を飲んだ」や「夜の盛り場でハメを外して遊んだ」は共通して高い水準である。

「大阪市北区」は順位を下けているとはいえ、5位。「大阪市福島区+此花区」も全体より順位を上げており、総じて大阪市の全体での上位都市が、さらにカテゴリー・ランキ

ングを上げている結果となった。

その他、ランキング上位の中では、「千代田区」、「港区」が、「カフェやバーで1人で自分だけの時間を楽しんだ」、「不倫のデートをした」、「夜の盛り場でハメを外して遊んだ」のスコアの高さもあって、全体よりも順位を上げている。「不倫のデートをした」が126位だった「文京区」は、カテゴリー・ランキング4位にとどまった。

なお、横浜市の各区の順位が、「横浜市中区」を除いて全体よりも高くなっていることも注目される。そのほか、「豊島区」や「小金井市」、「中央区」、「中野区」などは、「カフェやバーで1人で自分だけの時間を楽しんだ」や「平日の昼間から外で酒を飲んだ」などが高く、カテゴリー順位を上げている。

図 13

センシュアス・シティ ランキング 【匿名性がある】				カテゴリー 偏差値	カフェやバー で1人で自 分だけの時 間を楽しんだ		平日の昼間 から外で酒を 飲んだ		不倫のデート をした		夜の盛り場 でハメを外し て遊んだ	
順位	(参考) 全体順位				偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位
1	5	大阪市西区	80.5		81.9	2	71.9	5	56.6	24	80.1	2
2	7	大阪市中央区	79.7		70.9	7	71.3	6	84.3	1	76.3	4
3	11	千代田区	78.4		73.8	4	66.8	12	79.1	3	75.2	5
4	1	文京区	78.2		84.5	1	79.9	1	38.0	126	73.2	7
5	2	大阪市北区	77.8		70.0	11	73.1	4	64.4	14	83.1	1
6	10	港区	77.3		76.0	3	63.9	14	69.6	9	76.9	3
7	6	台東区	72.4		64.8	15	63.6	15	76.6	4	73.0	8
8	13	横浜市保土ヶ谷区	71.5		61.0	18	75.4	3	73.9	5	66.7	10
9	9	品川区	70.3		73.0	5	77.9	2	62.4	15	49.2	56
10	4	目黒区	69.8		68.4	12	61.4	17	56.1	28	74.6	6
11	15	渋谷区	65.2		70.1	9	67.1	10	38.5	124	62.6	15
12	39	豊島区	63.3		54.5	34	68.7	8	66.0	10	60.4	21
13	3	武蔵野市	63.1		71.0	6	42.2	104	80.6	2	48.8	58
14	29	大阪市福島区+此花区	62.0		58.1	22	65.4	13	43.3	104	68.9	9
15	33	世田谷区	61.8		65.8	14	60.3	22	55.9	30	52.3	42
16	8	金沢市	61.7		56.6	27	60.8	20	62.0	17	61.8	16
17	**	小金井市	61.6		70.4	8	69.4	7	43.3	103	44.1	97
18	16	荒川区	60.9		49.8	55	61.1	18	70.6	6	63.5	11
19	40	中央区	60.5		70.1	10	59.7	23	46.3	81	48.2	63
20	**	中野区	60.0		66.1	13	45.6	85	57.6	21	58.1	26
21	21	八王子市	59.7		56.7	26	57.1	31	70.0	8	52.7	40
22	20	大阪市都島区	59.1		55.6	31	57.0	32	70.3	7	52.2	44
23	14	盛岡市	58.8		57.0	25	52.2	46	56.5	26	62.9	12
24	36	横浜市港北区	58.7		61.9	17	62.9	16	53.4	38	47.0	74
25	18	仙台市	57.8		59.7	20	53.8	42	54.2	33	55.2	32
26	27	大阪市阿倍野区	56.9		62.9	16	56.8	33	48.5	69	48.3	62
27	41	横浜市鶴見区	56.7		55.9	29	50.6	53	54.9	32	60.2	22
28	22	昭島市	56.7		46.9	72	57.4	30	65.0	11	60.8	20
29	12	静岡市	56.5		49.2	61	51.0	51	65.0	12	62.7	13
30	17	福岡市	56.4		53.9	36	56.6	34	50.7	58	59.2	24
31	**	横浜市西区	56.2		55.6	30	60.8	21	44.2	95	56.4	29
32	**	江東区	54.5		54.9	33	58.7	25	51.1	55	48.7	59
33	37	大阪市住吉区	54.3		47.1	71	67.1	11	52.5	44	51.7	46
34	19	那覇市	54.2		50.2	54	53.5	43	52.0	51	59.4	23
35	25	葛飾区	53.3		55.2	32	58.6	26	43.5	102	49.4	55
36	**	大阪市天王寺区+浪速区+大正区	53.0		58.1	21	46.3	79	43.6	98	55.5	31
37	**	横浜市神奈川区	52.8		58.1	23	47.8	68	61.5	18	41.0	115
38	**	足立区	52.7		51.8	46	57.7	29	51.0	56	48.3	61
39	31	府中市	52.7		54.5	35	58.1	28	44.9	90	48.0	65
40	**	狛江市	52.1		52.9	41	49.7	56	58.8	20	46.8	75
41	45	大阪市住之江区	51.8		46.6	76	50.9	52	49.7	61	60.8	18
42	44	高知市	51.6		39.5	123	59.1	24	53.8	35	60.8	19
43	26	横浜市中区	51.6		58.0	24	47.2	73	45.3	89	48.7	60
44	**	札幌市	51.6		52.2	43	55.7	36	53.7	36	43.9	99
45	49	青森市	51.2		47.4	67	48.4	65	53.1	40	57.6	27
46	**	川崎市	51.0		52.4	42	51.6	50	50.2	59	47.9	67
47	**	東京都その他	50.9		41.4	113	58.2	27	57.4	22	53.8	38
48	34	松山市	50.9		49.3	58	50.6	54	47.7	73	55.0	34
49	**	大阪市生野区	50.8		45.6	81	61.0	19	55.9	29	45.3	89
50	24	京都市	50.5		53.4	37	46.1	81	54.0	34	47.3	71

※カテゴリー偏差値：4項目の合計得点を偏差値化した値。

category 3 『ロマンスがある』

「大阪市北区」が、「文京区」を抑えてトップである。「素敵な異性に見とれた」は偏差値で唯一100を超えており、この差がカテゴリー・ランキングに反映した結果である。「路上でキスした」がトップの「目黒区」が3位。

以降、どの選択肢も高スコアだった「港区」や、「デートをした」以外が高かった「荒川区」、「デートをした」、「素敵な異性に見とれた」が高かった「台東区」、「渋谷区」がトップ10に入った。

なお、「大阪市西区」は、「デートをした」、「路上でキスした」が相対的に低く、全体順位では上回った「大阪市中心

区」よりもカテゴリー・ランキングの順位は低い。

全体順位では50位圏外だった都市の中では、「新宿区」や「横浜市西区」、「大阪市西淀川区」などが、「デートをした」や「ナンパした・された」、「路上でキスした」などでスコアの高い項目があり、20位以内にランクイン。

なお、前項『匿名性がある』で各区が順位を上げた横浜市の場合、横浜駅、みなとみらいを持つ「横浜市西区」が19位にランクインするなど、順位を伸ばしているエリアが目立つ。

図 14

センシュアス・シティ ランキング 【ロマンスがある】				カテゴリー 偏差値	デートをした		ナンパした・さ れた		路上でキスし た		素敵な異性 に見とれた	
順位	(参考) 全体順位				偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位
1	2	大阪市北区		85.7	78.4	3	78.8	4	81.3	3	83.8	1
2	1	文京区		83.9	77.8	4	84.4	1	82.4	2	73.2	4
3	4	目黒区		79.3	79.8	2	54.7	32	84.0	1	75.1	2
4	3	武蔵野市		76.8	83.7	1	81.3	2	58.7	22	62.4	16
5	7	大阪市中央区		76.7	75.9	6	72.0	7	76.5	4	65.6	12
6	10	港区		75.3	70.5	8	73.4	6	69.8	7	73.1	5
7	6	台東区		69.2	73.9	7	51.3	45	63.9	15	68.2	9
8	16	荒川区		67.3	53.8	35	76.7	5	67.5	10	69.6	6
9	15	渋谷区		66.5	69.3	9	56.8	27	55.5	33	68.7	8
10	5	大阪市西区		65.8	54.7	30	70.1	8	60.6	20	73.5	3
11	8	金沢市		65.6	59.7	18	62.5	17	63.2	16	69.1	7
12	**	新宿区		63.7	76.6	5	55.2	29	57.0	28	48.5	69
13	39	豊島区		63.4	67.7	10	67.7	10	58.2	25	50.3	55
14	33	世田谷区		63.1	65.8	13	63.3	14	58.2	24	55.3	37
15	11	千代田区		62.9	56.7	23	61.4	18	60.9	18	66.8	11
16	36	横浜市港北区		61.7	51.6	45	79.6	3	64.8	13	53.6	43
17	9	品川区		59.4	55.3	27	67.9	9	56.8	29	55.8	34
18	17	福岡市		59.3	62.4	14	53.7	36	50.1	51	60.8	19
19	**	横浜市西区		59.2	56.7	24	53.2	39	61.3	17	60.0	21
20	**	大阪市西淀川区		59.2	66.6	11	44.7	90	68.7	8	45.5	87
21	14	盛岡市		58.1	50.0	53	63.1	15	55.9	32	63.2	15
22	21	八王子市		58.0	46.4	86	63.0	16	66.0	11	60.0	22
23	25	葛飾区		57.3	55.6	26	48.4	65	65.2	12	55.5	36
24	**	横浜市神奈川区		56.7	53.2	39	45.4	83	68.7	9	56.2	30
25	22	昭島市		56.4	58.8	19	51.3	44	51.8	42	56.5	29
26	24	京都市		56.0	58.3	20	53.8	35	50.7	48	55.0	39
27	12	静岡市		55.6	58.2	22	50.7	48	48.3	66	57.9	27
28	20	大阪市都島区		55.5	56.1	25	54.8	31	56.7	30	50.8	53
29	19	那覇市		55.2	53.3	38	59.5	20	50.5	50	55.6	35
30	27	大阪市阿倍野区		54.9	48.4	69	66.4	12	57.6	27	50.7	54
31	29	大阪市福島区+此花区		54.6	58.2	21	58.2	24	40.3	117	55.9	32
32	18	仙台市		54.6	51.6	44	58.0	25	51.5	44	56.1	31
33	28	江戸川区		54.4	50.5	51	51.0	47	50.5	49	63.2	14
34	**	三鷹市		54.3	54.5	31	43.2	97	53.9	37	59.8	23
35	40	中央区		54.1	52.0	42	46.7	74	51.7	43	62.2	17
36	23	山形市		53.9	54.1	33	57.3	26	56.1	31	47.1	80
37	26	横浜市中区		53.9	54.9	28	54.1	34	48.4	64	54.5	41
38	41	横浜市鶴見区		53.7	47.0	83	50.0	51	57.8	26	60.6	20
39	**	東久留米市		53.6	44.5	97	66.5	11	60.0	21	50.0	56
40	**	狛江市		53.6	47.8	75	59.1	21	60.8	19	49.9	59
41	**	中野区		53.3	50.3	52	65.5	13	47.7	71	51.3	52
42	45	大阪市住之江区		53.2	49.5	57	59.0	22	49.1	59	55.8	33
43	34	松山市		53.1	54.0	34	45.9	79	49.8	53	58.0	26
44	**	秋田市		52.7	48.1	73	55.8	28	47.9	68	59.4	24
45	**	小金井市		52.7	61.0	16	41.9	108	50.8	47	48.2	71
46	**	大阪市東淀川区		52.2	66.4	12	51.8	42	43.0	99	37.9	123
47	37	大阪市住吉区		52.0	45.3	94	52.7	40	55.1	35	57.4	28
48	13	横浜市保土ヶ谷区		51.5	38.1	123	53.5	37	64.1	14	58.3	25
49	**	国分寺市		51.3	41.0	113	60.2	19	71.8	6	42.0	103
50	**	足立区		51.2	50.7	49	49.6	56	49.2	56	53.8	42

※カテゴリー偏差値：4項目の合計得点を偏差値化した値。

category 4 『機会がある』

前項『ロマンスがある』と同様、「大阪市北区」が、「文京区」を抑えてトップ。大阪市は、「大阪市西区」、「大阪市中央区」などで順位を上げている。他にも、「コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した」が高い「大阪市都島区」、「刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した」や「ためになるイベントやセミナー・市民講座に参加した」が高い「大阪市福島区+此花区」など、「大阪市北区」の東西および南に隣接する都市の順位が高いことが、この分野の第一の特徴である。

カテゴリー・ランキング3位には「台東区」が入った。「刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した」以外の選択肢は、すべて4位以内と高水準である。

以降、「ためになるイベントやセミナー・市民講座に参加した」や「友人・知人のネットワークで仕事を紹介された・

紹介した」がトップクラスの「千代田区」、「刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した」や「コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した」が高い「渋谷区」、総じて高水準の「港区」が、全体よりも順位を上げている。

そのほか、「金沢市」、「仙台市」が順位を上げている。後にみるとおり、地方都市で全体順位が高い都市の場合、『食文化が豊か』や『自然を感じる』の順位が上位であるケースが多いのだが、両市とも、「刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した」をはじめとする『機会がある』のスコアが高いことは注目に値しよう。

全体順位35位以下の都市からは、「岐阜市」、「横浜市神奈川区」など、6都市がランクインしている。

以上が、都市における「関係性」を示す4つの分野についての分析である。『共同体に帰属している』は、「文京区」、「台東区」など、東京23区に高いスコアの都市が多く、『匿名性がある』、『ロマンスがある』、『機会がある』は、「大阪市北区」を中心とするエリアと、「千代田区」、「渋谷区」、「港区」などの東京23区中心部が強い。『匿名性がある』、『ロマンスがある』は、横浜市の一部の区も健闘し、『機会がある』については、「金沢市」、「仙台市」など、上位に食い込む地方都市もある。必ずしも東京や大阪の中心部が上位を占めるわけではない。

乱暴に素描すると、上記のようにまとめられそうだ。

図15

センシュアス・シティ ランキング 【機会がある】				刺激的で面白 い人達が 集まるイ ベント、 パーティ に参加し た		ためになる イベント やセミ ナー・市 民講座 に参加し た		コンサート、 クラブ、 演劇、 美術館 などの イベン トで興 奮・感 動した		友人・知 人のネ ットワ ークで 仕事を 紹介さ れた・ 紹介し た	
順位	(参考) 全体順位		カテゴリー 偏差値	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位
1	2	大阪市北区	82.9	84.3	2	66.4	8	83.2	1	73.4	3
2	1	文京区	78.9	74.7	3	81.5	1	70.2	6	72.9	5
3	6	台東区	78.1	64.3	11	71.3	4	76.4	3	84.4	2
4	5	大阪市西区	75.6	108.6	1	63.6	14	54.0	35	60.4	20
5	7	大阪市中央区	73.3	72.4	5	66.1	9	68.3	11	72.4	6
6	11	千代田区	73.2	60.8	14	76.9	2	69.6	7	73.2	4
7	8	金沢市	73.0	70.1	7	69.2	6	69.5	8	68.6	7
8	15	渋谷区	70.2	70.8	6	54.5	42	78.1	2	58.7	24
9	10	港区	69.3	73.2	4	58.2	24	65.7	13	66.9	10
10	20	大阪市都島区	68.2	64.9	10	57.1	30	72.1	4	64.7	13
11	18	仙台市	65.9	66.4	8	64.8	11	61.9	18	60.8	18
12	3	武蔵野市	65.5	53.3	36	62.4	16	70.9	5	64.5	14
13	13	横浜市保土ヶ谷区	65.2	61.0	13	63.9	13	60.8	19	67.4	9
14	4	目黒区	62.9	59.4	18	63.3	15	65.8	12	52.5	44
15	29	大阪市福島区+此花区	62.2	65.3	9	70.7	5	57.3	27	47.6	70
16	26	横浜市中区	60.7	60.4	15	60.4	19	68.6	10	41.2	116
17	12	静岡市	60.6	58.2	20	65.5	10	54.2	33	60.3	21
18	9	品川区	60.5	59.9	17	47.6	78	63.6	16	62.3	16
19	17	福岡市	60.2	52.7	37	54.4	44	69.3	9	54.1	36
20	**	岐阜市	60.0	51.2	47	71.9	3	55.0	31	58.6	25
21	14	盛岡市	59.2	53.5	35	69.0	7	54.5	32	56.1	31
22	**	横浜市神奈川区	58.6	61.2	12	36.4	125	49.3	60	86.9	1
23	19	那覇市	58.2	57.0	23	53.9	47	56.7	29	60.6	19
24	**	札幌市	58.1	55.6	27	57.7	25	60.8	20	51.4	47
25	23	山形市	57.8	49.0	64	57.4	28	64.6	15	53.2	42
26	16	荒川区	57.8	50.4	52	59.8	20	52.2	48	68.0	8
27	25	葛飾区	56.9	52.7	38	57.4	27	52.6	44	63.3	15
28	27	大阪市阿倍野区	56.4	54.1	32	62.2	17	59.3	24	43.8	100
29	21	八王子市	56.0	57.4	21	50.0	63	53.6	38	59.9	22
30	33	世田谷区	55.5	44.1	100	57.2	29	64.7	14	49.8	52
31	39	豊島区	55.4	53.7	34	48.5	72	59.9	22	53.7	40
32	**	東京都その他	55.0	56.9	24	59.3	21	48.1	68	55.1	34
33	34	松山市	55.0	51.7	43	52.8	52	60.5	21	49.2	57
34	42	宇都宮市	55.0	52.4	40	64.3	12	51.9	50	49.2	56
35	40	中央区	54.9	52.5	39	54.0	46	62.4	17	43.6	105
36	**	大阪市生野区	54.3	55.9	26	39.8	118	59.8	23	56.1	30
37	24	京都市	53.7	54.2	31	54.8	39	54.2	34	48.4	67
38	45	大阪市住之江区	53.5	57.2	22	48.1	75	50.6	55	56.5	29
39	38	新潟市	53.5	51.0	48	54.5	41	57.8	26	46.3	82
40	36	横浜市港北区	53.3	48.9	66	47.8	77	58.9	25	53.7	41
41	43	熊本市	52.7	55.5	28	49.0	67	51.8	51	52.5	43
42	31	府中市	52.1	56.3	25	41.8	107	56.8	28	49.0	58
43	22	昭島市	51.7	55.5	29	33.6	129	51.0	53	66.0	11
44	**	富山市	51.6	48.6	68	55.5	38	55.9	30	43.5	106
45	**	足立区	51.5	60.1	16	41.1	111	52.8	42	48.7	65
46	**	杉並区	51.4	45.8	85	62.1	18	46.2	80	53.8	39
47	41	横浜市鶴見区	51.3	51.9	42	45.8	88	47.7	73	61.2	17
48	32	松江市	51.0	51.4	45	54.2	45	45.8	85	54.5	35
49	49	青森市	50.9	50.5	51	50.2	60	51.6	52	50.6	50
50	30	青梅市	50.7	49.0	63	57.6	26	43.9	99	55.3	32

※カテゴリー偏差値：4項目の合計得点を偏差値化した値。

category 5 『食文化が豊か』

『自然を感じる』、『歩ける』と並んで、上位都市の顔ぶれに特徴のあるカテゴリーである。全体順位51位以下の都市から19都市がランクインしている。

トップは「金沢市」であり、2位の「那覇市」、3位の「山形市」が続く。6位の「武蔵野市」以外は、すべて首都圏、近畿圏以外の地方都市がトップ10を占める。また、「青森市」、「高知市」、「長野市」が10位以内に、「新潟市」、「富山市」、「佐賀市」、「水戸市」が20位以内にランクインした。

カテゴリートップの「金沢市」は、個別の選択肢では「地元でとれる食材を使った料理を食べた」、「地酒、地ビールなど地元で作られる酒を飲んだ」が1位。トップ10に入っ

た地方都市も、概ねこの2項目のスコアが高く、ランキングを押し上げている。

なお、首都圏、近畿圏で上位に食い込んだ都市は、例えば「大阪市北区」や「目黒区」、「港区」のように、「ミシュランや食べログの評価の高いレストランで食事した」のスコアが高いことに加え、「武蔵野市」のように、「庶民的な店でうまい料理やお酒を楽しんだ」のスコアが地方都市よりも高いのが特徴となっている。レストランや居酒屋等の飲食店のレンジが広く、数が多いことが反映されているのだろう。

結果として、食文化に特色を持つ地方都市と、東京23区および大阪市一部エリアとで上位を占めることとなった。

図16

センシュアス・シティ ランキング 【食文化が豊か】				カテゴリー 偏差値	庶民的な店 でうまい料理 やお酒を楽し んだ		地元でとれる 食材を使った 料理を食べた		地酒、地ビ ールなど地元で 作られる酒を 飲んだ		ミシュランや 食べログの評 価の高いレス トランで食事 した	
順位	(参考) 全体順位		偏差値		順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	
1	8	金沢市	77.3	56.1	33	73.3	1	80.8	1	59.2	21	
2	19	那覇市	74.3	68.1	7	65.3	13	77.7	2	56.9	26	
3	23	山形市	69.7	52.6	51	72.3	2	70.8	4	46.5	75	
4	14	盛岡市	69.1	54.3	42	67.2	8	77.4	3	49.4	51	
5	49	青森市	67.0	56.1	34	69.4	5	64.0	13	45.5	87	
6	12	静岡市	66.1	56.9	29	65.1	14	64.1	10	51.7	39	
7	3	武蔵野市	64.9	70.5	5	55.0	44	58.2	31	61.6	19	
8	32	松江市	64.5	51.6	55	70.2	4	62.1	17	40.9	120	
9	44	高知市	64.4	58.4	23	72.2	3	48.1	68	39.7	123	
10	35	長野市	64.2	50.0	62	68.9	6	64.1	12	43.4	108	
11	2	大阪市北区	64.0	72.7	3	47.1	72	62.7	15	71.3	6	
12	4	目黒区	63.9	81.8	1	41.7	104	52.3	50	82.5	3	
13	10	港区	63.9	61.4	19	42.6	99	62.4	16	95.2	1	
14	38	新潟市	63.5	55.2	37	64.0	16	65.1	9	46.0	83	
15	1	文京区	62.9	75.5	2	46.8	75	59.6	27	67.5	9	
16	**	富山市	62.5	51.4	57	66.8	10	62.0	19	42.5	113	
17	**	佐賀市	62.3	57.6	26	66.7	11	50.4	58	44.6	96	
18	**	水戸市	61.9	53.1	46	63.4	17	59.6	26	48.6	58	
19	11	千代田区	61.6	61.6	18	44.5	90	61.9	20	82.5	2	
20	5	大阪市西区	61.6	70.1	6	47.4	70	61.1	22	66.1	12	
21	**	宮崎市	61.4	52.7	50	66.7	12	50.5	57	46.9	70	
22	13	横浜市保土ヶ谷区	61.1	58.0	25	51.7	50	62.1	18	66.9	11	
23	17	福岡市	60.9	63.4	13	54.1	47	52.6	49	61.9	18	
24	7	大阪市中央区	60.7	66.3	10	46.8	74	62.8	14	67.3	10	
25	**	長崎市	60.5	58.8	22	64.6	15	45.2	86	46.1	81	
26	43	熊本市	60.2	54.7	41	63.4	19	49.6	61	49.1	53	
27	34	松山市	60.1	55.0	40	62.9	22	51.6	55	47.9	61	
28	**	徳島市	59.3	49.4	64	67.4	7	46.2	79	44.9	94	
29	22	昭島市	59.1	51.3	58	55.1	43	68.6	7	53.4	30	
30	24	京都市	58.5	55.1	39	55.2	42	56.7	37	56.8	27	
31	**	甲府市	58.5	49.9	63	56.7	36	68.6	6	49.2	52	
32	**	福島市	57.8	42.5	105	63.4	18	57.5	35	47.7	63	
33	18	仙台市	56.9	51.4	56	56.2	38	56.1	38	53.2	31	
34	9	品川区	56.8	65.4	11	42.2	102	60.5	24	67.6	8	
35	**	岐阜市	56.6	48.3	73	58.5	31	53.4	46	52.3	35	
36	**	前橋市	56.6	50.7	60	58.1	32	52.0	51	51.5	40	
37	**	岡山市	56.4	52.9	48	58.1	33	54.6	39	46.1	80	
38	42	宇都宮市	56.3	44.7	93	60.7	26	57.7	33	46.3	78	
39	30	青梅市	56.3	45.9	86	55.7	39	70.1	5	46.7	72	
40	**	山口市	56.1	49.1	66	63.0	21	54.4	40	37.7	130	
41	**	浜松市	55.8	48.3	74	59.3	29	53.6	44	47.3	68	
42	**	秋田市	55.7	40.9	113	61.0	25	61.1	23	45.1	91	
43	6	台東区	55.6	61.9	16	43.1	97	61.3	21	64.3	13	
44	**	福井市	55.5	52.9	49	58.9	30	48.2	67	46.4	77	
45	**	鹿児島市	55.4	49.2	65	61.4	23	48.4	66	43.8	102	
46	**	鳥取市	55.2	40.0	117	67.2	9	47.1	74	40.4	121	
47	27	大阪市阿倍野区	55.2	67.7	8	42.6	100	59.1	28	59.2	22	
48	15	渋谷区	55.1	64.9	12	37.9	119	53.7	43	78.2	4	
49	**	広島市	54.8	53.3	45	56.8	35	45.8	82	50.6	43	
50	**	札幌市	54.6	55.6	36	50.5	55	57.8	32	52.4	33	

※カテゴリー偏差値：4項目の合計得点を偏差値化した値。

category 6 『街を感じる』

カテゴリートップは「武蔵野市」である。「目黒区」、「台東区」、「品川区」、「渋谷区」などの、「活気ある街の喧騒を心地よく感じた」や「商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた」のスコアが総じて高水準にあり、全体よりも順位を上げている。また、「目黒区」の「街の風景をゆっくり眺めた」、「台東区」の「公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た」が、個々の選択肢の中ではトップである。（いずれも「武蔵野市」が2位）

また、元町・中華街を擁する「横浜市中区」や、横浜駅周辺の「横浜西区」の、横浜市の2エリアが全体より大きく順位を上げているが、いずれも「公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た」のスコアが高い。

全体順位51位以下の都市のうち、50位以内にランクインした都市は14都市あるが、すべて東京都か横浜市である。「中野区」は「商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた」がカテゴリー・ランキング5位であり、「横浜西区」は「公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た」が同5位。また、「三鷹市」などは「街の風景をゆっくり眺めた」などが順位を押し上げる要因になっている。

全体を通して、東京都の各エリアが上位に食い込んでいる印象が強いが、実際、上位50都市のうち、約6割の29都市を東京都が占めている。東京23区に限ってみると、21区がランクイン。最も“東京都比率”の高い指標となっている。

図17

センシュアス・シティ ランキング 【街を感じる】				カテゴリー 偏差値	街の風景を ゆっくり眺め た		公園や路上 で演奏やパ フォーマンスし ている人を見 た		活気ある街 の喧騒を心 地よく感じた		商店街や飲 食店から美 味しそうな匂 いが漂ってき た		
順位	(参考) 全体順位		偏差値		順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位
1	3	武蔵野市	81.2		72.4	2	80.3	2	70.4	6	78.1	2	
2	2	大阪市北区	79.6	63.4	10	69.5	8	85.2	1	78.9	1		
3	4	目黒区	79.0	84.4	1	61.8	18	81.6	2	71.4	4		
4	6	台東区	76.3	62.7	11	81.0	1	74.0	5	68.1	9		
5	26	横浜市中区	72.4	66.0	8	79.7	3	64.1	12	63.3	15		
6	9	品川区	72.4	65.4	9	53.9	41	79.8	3	75.5	3		
7	5	大阪市西区	72.3	70.7	3	70.2	6	75.0	4	60.0	22		
8	15	渋谷区	70.0	57.7	27	70.0	7	69.1	8	67.7	10		
9	1	文京区	68.6	69.6	5	63.5	13	68.8	9	61.1	21		
10	7	大阪市中央区	67.1	54.3	45	63.1	14	70.2	7	67.7	11		
11	29	大阪市福島区 + 此花区	65.9	51.5	64	62.0	15	66.3	11	70.3	6		
12	39	豊島区	63.2	46.8	86	61.1	20	60.5	18	71.3	5		
13	40	中央区	62.6	70.0	4	51.6	52	57.5	26	63.5	14		
14	10	港区	61.3	69.5	6	44.7	91	63.3	14	62.2	17		
15	**	中野区	61.1	42.0	107	63.8	12	58.5	21	68.1	8		
16	**	横浜市西区	60.8	52.6	52	71.0	5	52.5	47	57.4	29		
17	16	荒川区	59.8	51.5	63	60.0	25	52.8	44	65.3	12		
18	**	三鷹市	59.7	61.3	16	60.8	21	53.2	43	56.5	32		
19	31	府中市	59.6	51.4	65	66.4	11	60.7	17	52.8	46		
20	25	葛飾区	59.3	48.5	75	58.6	26	57.7	24	63.6	13		
21	33	世田谷区	59.3	55.3	38	55.2	34	57.7	25	61.7	20		
22	17	福岡市	59.1	53.2	50	51.2	55	62.7	15	62.7	16		
23	20	大阪市都島区	58.9	48.9	73	61.6	19	58.2	22	59.0	25		
24	**	横浜市都筑区	58.7	58.9	20	66.8	10	51.4	54	51.4	52		
25	**	江東区	58.4	53.9	46	48.3	65	66.6	10	59.8	24		
26	46	神戸市	58.1	61.8	14	52.7	47	59.5	19	54.4	42		
27	**	北区	58.0	45.6	90	67.3	9	54.4	36	56.6	31		
28	27	大阪市阿倍野区	57.6	47.3	83	60.1	24	62.7	16	54.6	38		
29	12	静岡市	57.5	56.9	32	62.0	16	48.9	65	56.0	34		
30	**	練馬区	57.4	51.6	62	54.3	40	57.8	23	59.8	23		
31	11	千代田区	56.9	57.0	30	54.5	38	63.5	13	50.0	60		
32	**	小金井市	56.8	43.0	104	60.4	23	42.9	99	70.1	7		
33	24	京都市	56.4	61.5	15	53.7	45	52.4	49	54.5	40		
34	14	盛岡市	55.7	58.5	22	48.2	66	55.5	33	57.3	30		
35	22	昭島市	55.7	55.2	41	62.0	17	45.7	78	54.5	41		
36	18	仙台市	55.7	57.8	25	55.1	35	59.1	20	48.7	69		
37	13	横浜市保土ヶ谷区	55.4	55.8	35	55.0	36	52.2	50	54.7	37		
38	**	調布市	54.7	54.9	42	52.6	48	52.4	48	55.3	35		
39	37	大阪市住吉区	54.2	44.6	92	52.4	49	56.5	29	58.8	26		
40	28	江戸川区	54.1	53.1	51	55.5	31	51.7	52	53.0	45		
41	**	墨田区	54.1	47.4	82	53.7	44	53.3	41	57.5	28		
42	**	杉並区	54.0	44.4	95	54.6	37	49.2	63	61.9	18		
43	19	那覇市	53.4	58.8	21	52.2	50	56.3	30	46.3	79		
44	45	大阪市住之江区	53.4	57.4	28	47.7	70	55.8	31	51.7	50		
45	8	金沢市	53.2	59.8	18	48.8	62	53.4	40	50.3	58		
46	**	大田区	53.1	54.5	43	51.1	56	54.0	38	51.3	53		
47	50	横浜市栄区	53.0	55.3	39	47.4	71	53.2	42	54.5	39		
48	21	八王子市	52.3	56.9	31	55.4	32	57.4	28	40.9	115		
49	**	国立市	52.3	48.2	76	71.8	4	45.4	81	41.3	110		
50	**	新宿区	52.2	36.7	123	54.3	39	57.4	27	56.4	33		

※カテゴリー偏差値：4項目の合計得点を偏差値化した値。

category 7 『自然を感じる』

全体順位 35 位以下の都市のうち、半数以上の 22 都市が 34 位以内にランクインする結果となった。

顔ぶれをみると、東京の「市」で最も西に位置する「あきる野市」と「青梅市」が 1 位、2 位である。3 位は多摩ニュータウンの一角を占める「稲城市」。同じく多摩ニュータウンを含む「八王子市」、「多摩市」も 20 位前後であり、東京 23 区以外の都市の中でも西部、もしくはニュータウン系都市が上位に多いのが特徴となっている。もちろん、5 位の「長野市」、6 位の「松江市」など、20 位以内の都市のうち、半数の 10 都市が地方都市であるが、東京 23 区以外の都市も 20 位以内に 7 都市がランクインしている。

なお、4 位の「武蔵野市」は、「木陰で心地よい風を感じた」、「公園や水辺で緑や水に直接ふれた」、「美しい青空や

朝焼け・夕焼けを見た」の 3 項目で 1 位か 2 位をマークするが、「空気が美味しくて深呼吸した」が 90 位にとどまった。こうした傾向は、鎌倉市に隣接する「横浜市栄区」、「横浜市金沢区」や、港北ニュータウンを擁する「横浜市都筑区」など、全体より順位を上げた横浜市の区部にもみられる。

これに対して、「長野市」、「松江市」、「山口市」などの地方都市は、「空気が美味しくて深呼吸した」のスコアが高い一方で、「公園や水辺で緑や水に直接ふれた」が相対的に低い。ある程度“人の手の入った自然”については、地方都市のスコアはそれほど高くないといえるかもしれない。

なお、東京 23 区、および大阪市の各区のうち、上位 30 位に入ったのは「大阪市西区」（25 位）だけであった点も指摘しておく。

図18

センシユアス・シティ ランキング 【自然を感じる】				カテゴリー 偏差値	木陰で心地 よい風を感じ た		公園や水辺 で緑や水に 直接ふれた		美しい青空 や朝焼け・夕 焼けを見た		空気が美味 しくて深呼吸 した	
順位	(参考) 全体順位				偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位
1	47	あきる野市		78.1	72.1	2	70.5	5	72.7	1	84.6	1
2	30	青梅市		73.1	71.3	4	73.2	4	66.4	4	72.8	2
3	**	稲城市		69.1	71.0	5	67.4	7	66.1	5	65.4	7
4	3	武蔵野市		66.6	72.7	1	75.5	1	69.8	2	45.7	90
5	35	長野市		64.9	64.8	6	59.6	21	65.8	7	63.3	12
6	32	松江市		64.8	57.4	29	60.1	18	66.5	3	68.1	4
7	50	横浜市栄区		63.8	71.9	3	74.7	3	54.2	51	52.7	50
8	**	山口市		62.5	61.2	13	52.4	55	62.9	9	67.1	5
9	**	大津市		62.5	64.1	8	61.3	13	58.9	30	61.0	19
10	23	山形市		62.2	60.5	19	48.9	79	64.0	8	68.6	3
11	**	富山市		62.0	55.1	41	60.3	17	62.2	13	64.8	9
12	**	横浜市金沢区		62.0	63.0	10	59.7	20	62.3	12	58.4	32
13	**	宮崎市		60.9	59.3	23	56.0	30	60.8	19	62.6	13
14	44	高知市		60.7	61.6	12	47.3	84	61.2	16	66.6	6
15	38	新潟市		60.6	60.8	16	54.6	38	62.4	10	59.9	24
16	**	横浜市都筑区		60.6	62.0	11	60.5	15	61.2	15	55.2	41
17	**	日野市		60.6	61.1	15	50.7	69	66.0	6	59.3	29
18	21	八王子市		60.5	60.7	17	54.3	39	60.6	20	61.6	17
19	**	東大和市		60.5	59.0	24	64.1	9	60.9	18	54.9	42
20	8	金沢市		60.4	57.2	30	60.1	19	54.9	45	64.7	10
21	**	多摩市		60.3	57.7	27	66.3	8	56.7	36	57.5	34
22	14	盛岡市		60.2	56.8	33	54.8	36	62.4	11	61.6	16
23	22	昭島市		59.4	63.1	9	56.8	27	53.9	52	60.5	21
24	48	奈良市		59.2	59.3	22	52.4	54	55.3	43	65.1	8
25	5	大阪市西区		59.1	57.0	32	75.3	2	49.0	77	54.1	46
26	12	静岡市		59.0	57.1	31	59.2	22	57.7	34	58.5	31
27	**	甲府市		58.9	55.3	39	53.2	47	61.0	17	61.5	18
28	**	鳥取市		58.2	54.7	44	50.2	76	59.4	24	63.6	11
29	**	前橋市		58.1	52.9	55	50.9	67	61.4	14	62.3	14
30	34	松山市		57.6	60.0	20	55.6	33	55.7	40	56.6	36
31	4	目黒区		57.5	59.8	21	67.9	6	54.5	49	47.3	83
32	**	東久留米市		57.0	52.3	60	53.2	46	59.1	29	59.5	26
33	**	長崎市		56.9	55.1	42	51.8	59	59.3	25	57.7	33
34	**	横浜市戸塚区		56.8	60.5	18	60.3	16	55.3	44	50.1	66
35	18	仙台市		56.7	51.9	64	53.3	44	58.6	31	59.4	28
36	**	鹿児島市		56.6	57.6	28	52.5	51	52.9	58	60.3	23
37	1	文京区		56.4	52.0	61	61.7	12	59.5	23	50.6	62
38	46	神戸市		56.4	55.5	38	61.1	14	53.2	56	54.2	45
39	17	福岡市		56.3	54.6	47	57.6	26	58.4	32	52.4	54
40	**	秋田市		55.8	54.7	45	46.5	93	57.4	35	60.7	20
41	26	横浜市中区		55.7	64.5	7	57.9	25	49.3	76	50.6	64
42	49	青森市		55.6	53.5	52	44.1	105	60.3	21	60.3	22
43	**	三鷹市		55.5	53.6	51	55.5	34	60.0	22	51.0	59
44	**	徳島市		55.5	51.4	68	53.2	45	52.3	63	62.0	15
45	**	西東京市		55.4	56.0	36	50.8	68	56.4	37	55.7	40
46	42	宇都宮市		55.3	56.7	34	50.3	75	55.9	38	55.8	39
47	**	調布市		55.3	54.6	46	63.4	10	50.1	75	52.3	55
48	43	熊本市		55.3	53.4	54	49.7	78	55.4	42	59.4	27
49	**	横浜市青葉区		55.2	61.1	14	54.7	37	52.5	61	51.4	58
50	**	水戸市		54.9	51.0	72	52.5	52	59.2	27	54.2	44

※カテゴリー偏差値：4項目の合計得点を偏差値化した値。

category 8 『歩ける』

カテゴリトップは全体でも1位の「文京区」。東京23区最東部の区である「江戸川区」が、全体より順位を大きく上げて2位、同じく全体では50位だった「横浜市栄区」が3位となっている。「江戸川区」は「家族と手を繋いで歩いた」が1位、「横浜市栄区」は「通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた」が2位である。

『自然を感じる』で上位にランクインした、「あきる野市」、「青梅市」、「稲城市」も、それぞれ16位、9位、34位に入っており、『自然を感じる』ことと『歩ける』ことの相関が高いようにみえる。しかし、「武蔵野市」、「目黒区」に加え、『自然を感じる』では51位以下だった「品川区」、「荒川区」などの東京23区も10位以内に入っており、一概にそうはいえないことがわかる。「品川区」は、「通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた」、「遠回り、寄り道していつもは歩かない道を歩いた」が高く、「荒川区」は「家族と手を繋いで歩いた」が高い。

なお、横浜市の各区で、全体より順位を上げているエリ

アが多い。新横浜都心の中心エリアである「横浜市港北区」、たまプラーザを擁する「横浜市青葉区」など、『自然を感じる』から大きく順位を上げている。

また、「大阪市住吉区」、「大阪市住之江区」が、それぞれ15位、32位にランクインしていることも注目されよう。隣接する「大阪市阿倍野区」（21位）と並んで、『歩ける』エリアだと評価されているようだ。一方で、全体上位の「大阪市北区」、「大阪市西区」は大幅に順位を下げている。選択肢設定の意図を説明した別項で、南イタリアや尾道、長崎の各都市を例示し、「楽しい歩行経験」「まち歩きของกลุ่ม感」を重視したことを述べた。『自然を感じる』と、『歩ける』との間の微妙な差は、そうした楽しさやグループ感の差を示していると考えられることも可能だろう。

ちなみに、東京23区も大阪も、『自然を感じる』では各1~2都市しか上位50位以内にランクインしていなかったのに対し、『歩ける』では東京23区のうち10区、大阪では7つのエリアが50位圏内である。

以上が、都市における「身体性」に関する4つの分野のおおよその分析である。『食文化が豊か』では強烈な特色を持つ地方都市と、東京23区および大阪市一部エリアが上位を占め、『街を感じる』は、東京都の各エリアが軒並み上位である。『自然を感じる』は、東京23区以外の都市（主にニュータウン系都市）と地方都市とが上位を占める一方、『歩ける』では東京23区、および横浜市、大阪市の一部エリアが躍進する。全般に、大阪市の「身体性」に関するスコアが低い。一筆書きにまとめると、上記のようになるだろう。

図19

センシユアス・シティ ランキング 【歩ける】			カテゴリー 偏差値	通りで遊ぶ 子供たちの 声を聞いた		外で思い切り 身体を動か して汗をかい た		家族と手を 繋いで歩い た		遠回り、寄り 道していつも は歩かない 道を歩いた	
順位	(参考) 全体順位			偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位
1	1	文京区	86.1	61.7	16	87.3	1	69.5	6	83.5	1
2	28	江戸川区	74.8	63.6	11	67.0	5	77.9	1	61.1	19
3	50	横浜市栄区	73.0	77.4	2	58.1	22	61.6	16	64.5	10
4	3	武蔵野市	68.7	57.7	29	61.4	13	73.2	4	60.4	25
5	4	目黒区	67.4	45.6	94	68.7	3	66.9	8	69.7	4
6	9	品川区	67.2	64.8	5	54.2	46	60.6	22	67.0	6
7	36	横浜市港北区	66.3	60.7	18	63.1	10	62.6	14	58.8	29
8	12	静岡市	65.5	64.0	8	65.7	7	52.0	54	60.7	24
9	**	稲城市	64.9	78.6	1	54.8	41	54.2	39	50.7	62
10	16	荒川区	64.6	53.6	45	54.9	40	72.0	5	61.0	22
11	**	横浜市青葉区	63.8	55.7	34	67.1	4	53.7	42	62.4	13
12	**	横浜市都筑区	63.7	64.1	7	59.1	21	67.3	7	47.3	77
13	7	大阪市中央区	62.8	51.9	57	59.2	20	60.2	23	65.1	8
14	41	横浜市鶴見区	62.1	63.9	9	47.5	86	63.8	12	57.1	36
15	37	大阪市住吉区	62.0	55.4	37	56.4	27	54.0	41	67.4	5
16	47	あきる野市	61.7	59.4	22	61.2	14	57.9	28	53.8	45
17	17	福岡市	61.6	57.9	26	53.8	50	57.6	29	62.4	12
18	31	府中市	60.8	55.5	35	58.1	23	54.3	37	62.3	14
19	20	大阪市都島区	60.8	63.3	12	50.0	74	64.9	10	50.9	61
20	21	八王子市	60.2	51.6	63	62.3	12	54.2	40	61.0	21
21	27	大阪市阿倍野区	60.1	48.6	79	52.9	57	61.5	18	65.9	7
22	**	西東京市	60.0	57.9	27	65.8	6	48.9	77	55.1	42
23	24	京都市	59.5	62.9	14	56.1	29	50.1	65	56.0	37
24	13	横浜市保土ヶ谷区	59.5	53.3	49	56.0	30	66.9	9	51.0	60
25	**	大田区	58.3	60.7	19	55.4	36	43.6	99	62.1	17
26	22	昭島市	58.3	53.3	48	47.0	88	73.9	3	49.3	67
27	18	仙台市	58.2	63.3	13	53.3	52	51.3	60	53.4	49
28	8	金沢市	58.0	51.3	65	60.5	15	53.0	47	58.0	32
29	**	横浜市港南区	57.9	59.6	21	45.9	93	57.3	32	58.2	31
30	**	大津市	57.8	52.2	55	52.8	58	61.5	17	55.8	39
31	**	広島市	57.2	60.4	20	56.7	26	50.6	62	51.6	59
32	45	大阪市住之江区	57.1	64.2	6	46.7	91	54.3	38	52.8	52
33	46	神戸市	56.9	52.4	52	53.9	49	59.7	24	53.7	47
34	30	青梅市	56.4	47.9	84	63.8	9	54.8	34	52.7	54
35	25	葛飾区	56.4	58.5	25	49.1	80	53.5	44	55.9	38
36	14	盛岡市	56.1	51.8	58	55.4	37	50.8	61	59.2	27
37	**	江東区	56.1	51.6	62	49.2	78	59.1	26	57.2	35
38	19	那覇市	55.8	63.8	10	59.6	19	42.6	104	48.4	68
39	**	宮崎市	55.7	55.8	33	64.7	8	47.9	78	47.4	74
40	40	中央区	55.7	42.8	107	54.0	48	62.9	13	57.9	33
41	**	町田市	55.3	53.6	46	55.7	32	53.7	43	51.9	56
42	**	練馬区	55.2	58.6	24	55.3	38	51.6	56	48.3	70
43	**	東大和市	53.6	56.3	31	40.3	112	59.1	25	53.3	50
44	**	横浜市瀬谷区	53.6	77.1	3	36.3	122	43.7	98	48.3	69
45	15	渋谷区	53.5	35.7	126	43.3	103	55.6	33	77.0	2
46	2	大阪市北区	53.3	37.2	122	50.8	70	52.2	52	70.8	3
47	5	大阪市西区	53.2	37.8	120	79.6	2	39.4	112	54.6	44
48	**	川崎市	53.0	53.4	47	45.3	95	57.5	31	51.7	57
49	35	長野市	52.8	52.0	56	62.4	11	46.2	86	47.4	75
50	**	大阪市鶴見区	52.7	66.5	4	36.7	121	64.6	11	37.6	123

※カテゴリー偏差値：4項目の合計得点を偏差値化した値。

3 センシュアス・シティのタイプ

前項でみた、各カテゴリー・ランキングを、今度は都市別にみてみよう。前項の分析と多少重複する部分があるが、各都市がどの分野に強いのか、その特徴を、都市間で対比しつつ把握することが目的である。

category 1 『東京都』

センシュアス度トップの「文京区」は、「お寺や神社にお参りをした」、「買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ」などに代表される『共同体に帰属している』、「外で思いきり身体を動かして汗をかいだ」、「遠回り、寄り道していつもは歩かない道を歩いた」に代表される『歩ける』が高く(カテゴリー・ランキング1位)、「デートをした」などの『ロマンスがある』、「コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した」などの『機会がある』も高水準である(カテゴリー・ランキング2位)。一方で、「木陰で心地よい風を感じた」、「空気が美味しくて深呼吸した」などの『自然を感じる』は、スコアの水準自体は低くないが、相対的に高いわけではない。

これに対して、センシュアス度3位の「武蔵野市」はバランスが取れていることがわかる。『街を感じる』と『自然を感じる』が「文京区」よりも高く、レーダーチャートがより円に近い形状をしている。

続く4位の「目黒区」も、「武蔵野市」タイプである。『自然を感じる』が際立って高いわけではないため、「武蔵野市」よりも角が立って見えるが、その他のカテゴリー・スコアは「武蔵野市」と拮抗しているのである。株式会社リクルート住まいカンパニーの実施した『2015年版 みんなが選んだ住みたい街ランキング 関東版』において、1位の「吉祥寺駅」がある「武蔵野市」も、同2位に躍進した「目黒駅」からの

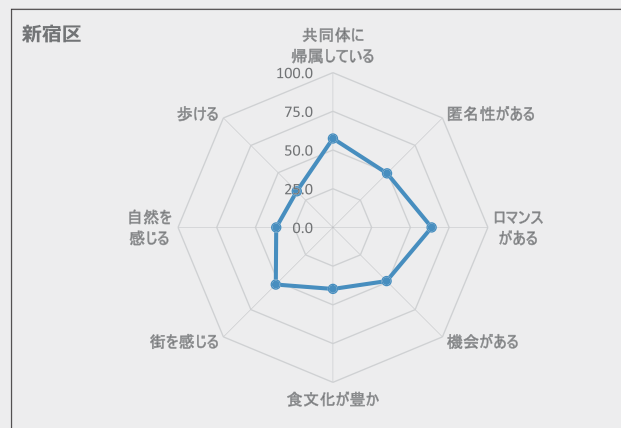
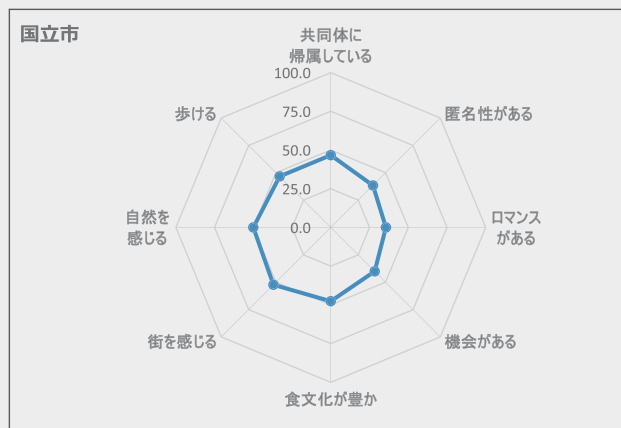
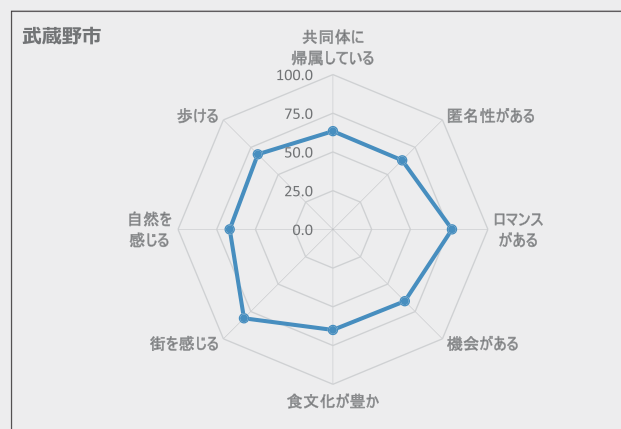
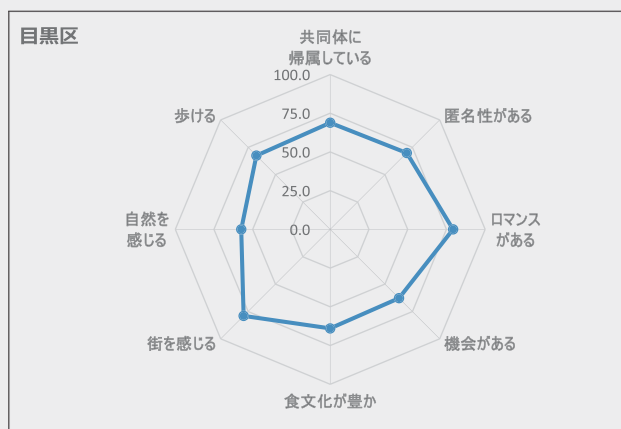
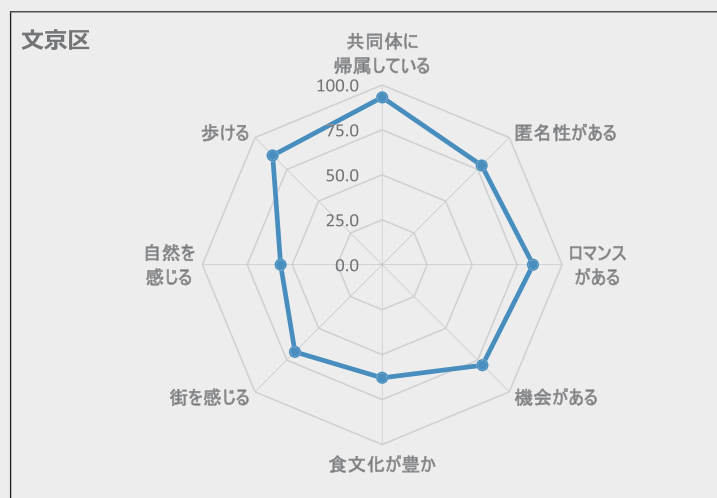
生活エリアにある「目黒区」も、センシュアス度においては全カテゴリーで上位を占めるバランス型だといえよう。

当然ながら、東京23区や、東京都23区以外の都市が、すべて同じ傾向を示すわけではない。そもそも偏差値の水準自体が異なるのだが、ここでは、センシュアス・シティ・ランキング上位50位圏外の「新宿区」と「国立市」をみてみよう。「新宿区」の場合、『共同体に帰属している』や『ロマンスがある』は、ある程度の評価を得ているが、『機会がある』や『街を感じる』などは平均的。『食文化が豊か』や『歩ける』などは、全国平均を下回っているのである。同様に、「国立市」の場合、『共同体に帰属している』や『街を感じる』など5分野においては平均的なスコアなのだが、『匿名性がある』、『ロマンスがある』、『機会がある』が平均を大きく下回っている。

東京を指して、「刺激がある」「面白いことが起こる」「未知との出会いがある」と表現するケースは多いが、たとえ都心部であっても、『ロマンスがある』、あるいは『機会がある』などの体験が保証されているわけではなさそうだ。

同時に、「東京には自然がない」というのも誤りである。実際の公園や緑などの量に関する分析は他の考察に譲るが、特に東京23区以外の市部に、『自然を感じる』順位が高い都市が多いことは、前項で確認した通りである。

図20



category 2 『東京下町』

ここで、センシuas度・上位都市の分析を離れ、東京の下町と呼ばれるエリアに注目しよう。

図21に示す区のうち、「台東区」、「荒川区」、「葛飾区」、「江戸川区」はセンシuas度の上位30位にランクインしている（それぞれ6位、16位、25位、28位）。

美術館・博物館の集積エリアである上野駅周辺や、浅草などの、古くから人を引き寄せるスポットだけでなく、谷中や御徒町一蔵前など、昨今話題になっているエリアを持つ「台東区」は、『自然を感じる』、『歩ける』が相対的に低い以外は総じてスコアが高く、特に『共同体に帰属している』、『機会がある』、『街を感じる』は、偏差値75以上の高水準である。その他の分野も、図21の6エリア中、トップである。

続く「荒川区」と「葛飾区」は、『食文化が豊か』、『自然を感じる』が、偏差値50前後にとどまるものの、その他は万遍なくスコアが高い点で共通している。特に「荒川区」の場合、『匿名性がある』、『ロマンスがある』、『歩ける』の

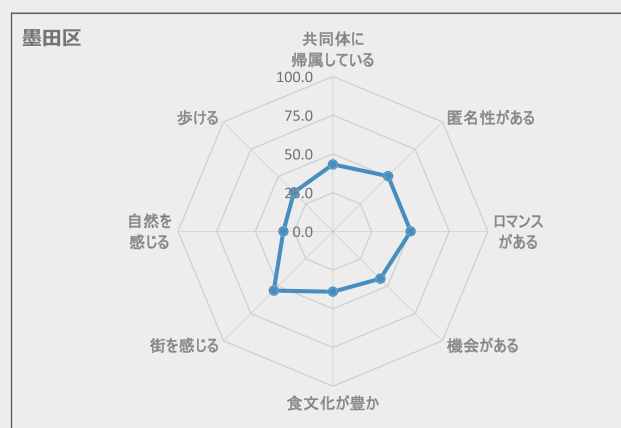
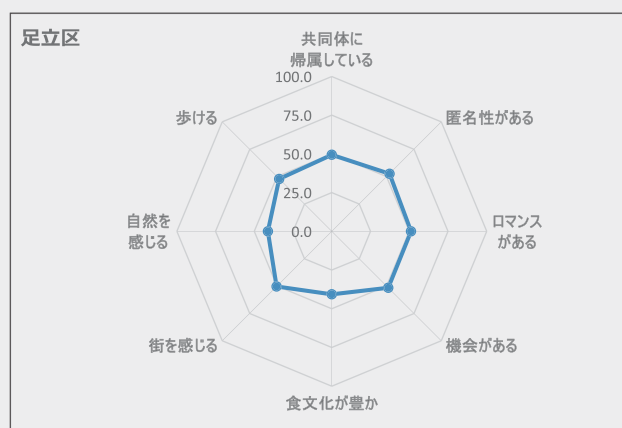
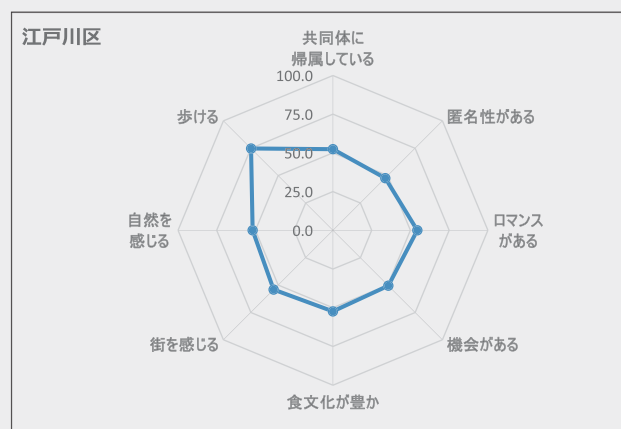
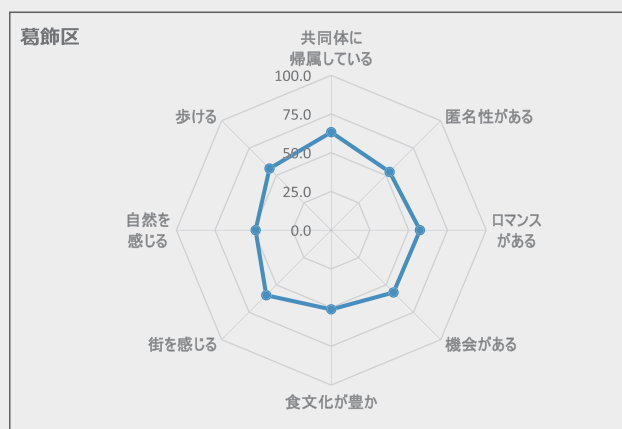
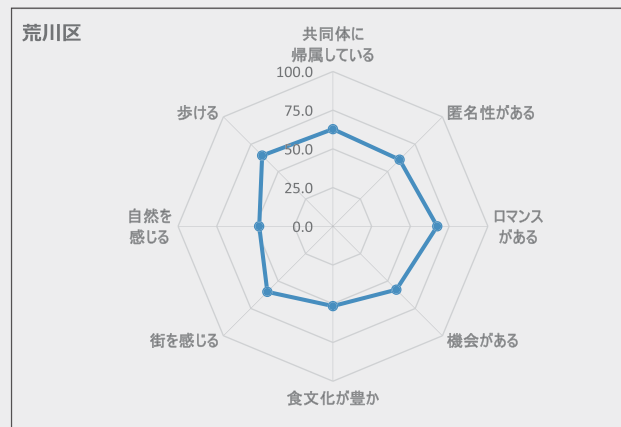
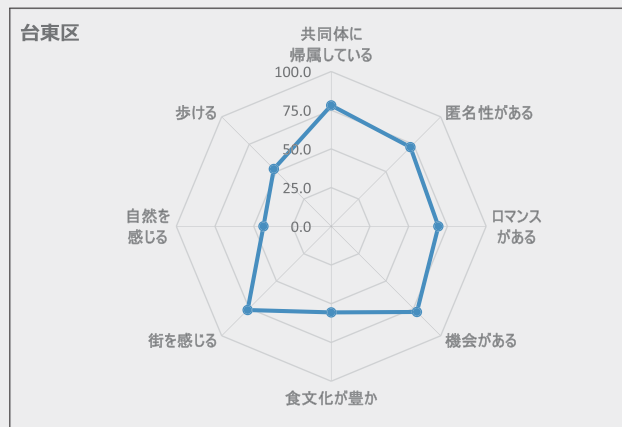
スコアが偏差値60を超えており、これらの分野で「葛飾区」に差をつけている。

これらの区と一味違うスコアの出方を見せるのが、東京最東端に位置し、浦安市に隣接する「江戸川区」である。前項でもみた通り、『歩ける』が突出して高い。また、同じ下町の他の区が『自然を感じる』の偏差値が軒並み50未満であるのに対し、平均以上をマークしている。

「足立区」は、『食文化が豊か』、『自然を感じる』が、偏差値40程度で低く、その他の分野も平均前後のスコア。東京スカイツリーで話題を呼んでいる「墨田区」は、『街を感じる』がそこそこ高い水準である一方、『自然を感じる』、『歩ける』が極端に低く、その意味で特色はあるのだが、総じて低スコアである。

隣接している区同士であっても、そのスコアの水準だけでなく、強み・弱みの差（特色と言ってもよい）が大きいといえるだろう。

図 21



category 3 『大阪市』

再び、センシユアス度・上位都市の特徴把握に戻る。
センシユアス度2位の「大阪市北区」は、「文京区」よりメリハリが効いている。「デートをした」や「路上でキスした」などの『ロマンスがある』、「刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した」などの『機会がある』や、「商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた」、「活気ある街の喧騒を心地よく感じた」などの『街を感じる』などは「文京区」よりも高い。その一方で、『歩ける』、『自然を感じる』は平均程度に留まっている。

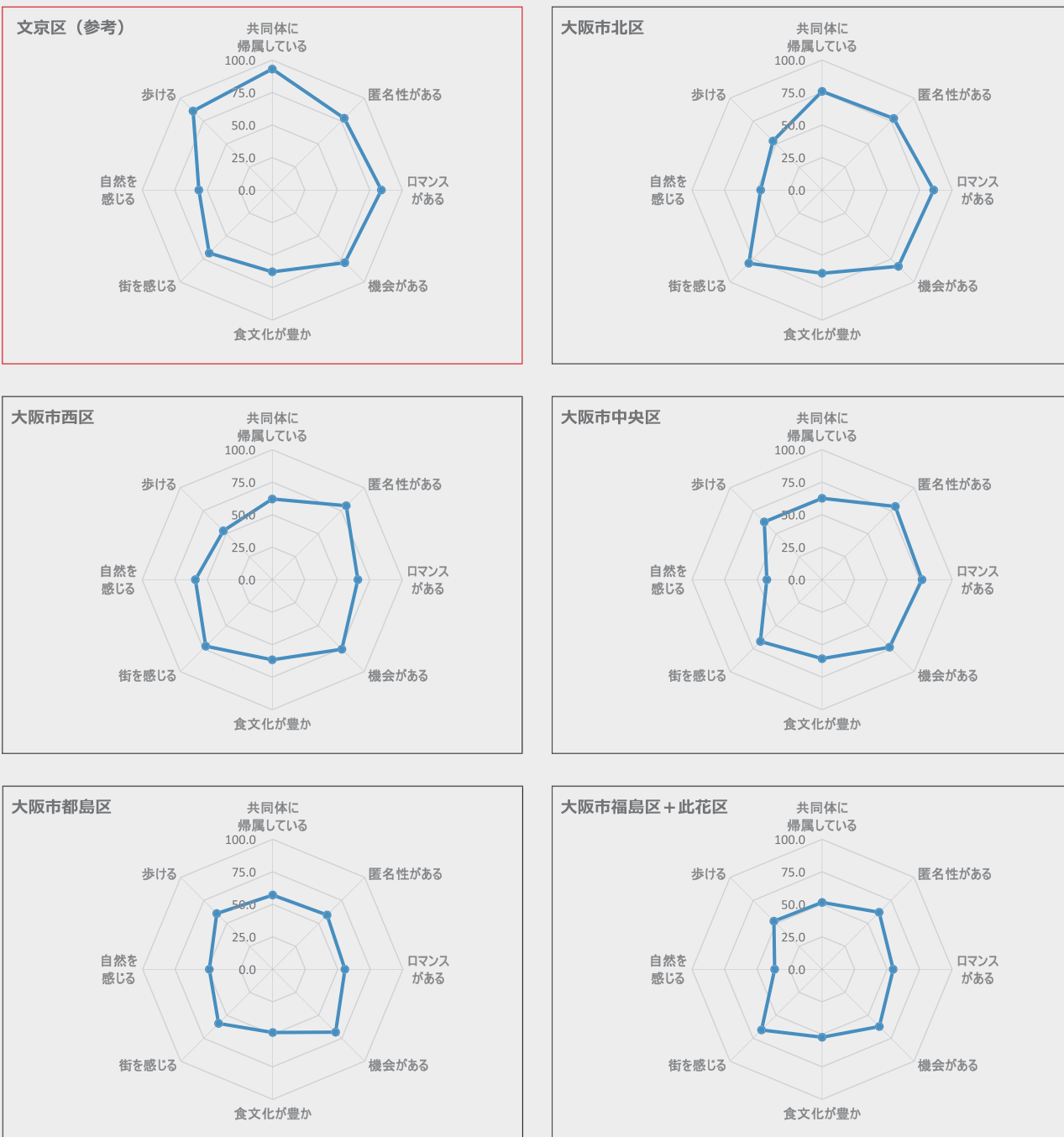
「大阪市西区」、「大阪市中央区」も、大きくは「大阪市北区」と同タイプである。「カフェやバーで1人で自分だけの時間を楽しんだ」、「不倫のデートをした」などの『匿名性がある』は、「大阪市西区」、「大阪市中央区」がカテゴリー・ランキングで1位、2位を占めており、『機会がある』、『街を感じる』なども上位にあるのに対し、「大阪市西区」では『歩ける』が平均程度にまで落ち込み、『ロマンスがある』もやや低い。「大阪市中央区」では『自然を感じる』が平均を下回っている。

また両区とも、『共同体に帰属している』は、「大阪市北区」ほど高くはない。

大阪市について、各カテゴリーで上位にランクインした「大阪市都島区」と「大阪市福島区+此花区」についても、参考までレーダーチャートを掲載する。センシユアス度20位の「大阪市都島区」、同29位の「大阪市福島区+此花区」とも、『機会がある』のスコアが高く、これらの近接エリア一帯が、豊富な出合いの機会やチャンスを提供していることがうかがえる。

あえて微妙な違いを記述すれば、自然を感じる、歩くことの楽しさ以外は全国トップクラスの「大阪市北区」、匿名性が高いが、ややロマンスに欠ける「大阪市西区」、匿名性、ロマンスとも高い「大阪市中央区」、歩いて楽しい「大阪市都島区」、街を感じられる「大阪市福島区+此花区」、となるだろうか。その都市にある「場所」や人々の「行動」の微妙な差が、ディテールを形作っているのだろう。

図 22



category 4 『横浜市』

センシユアス度上位にランクインした、東京都、大阪市以外の都市はどういう特徴をもつだろうか。

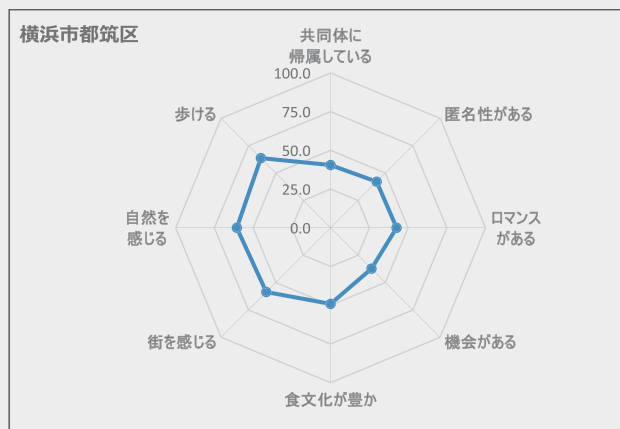
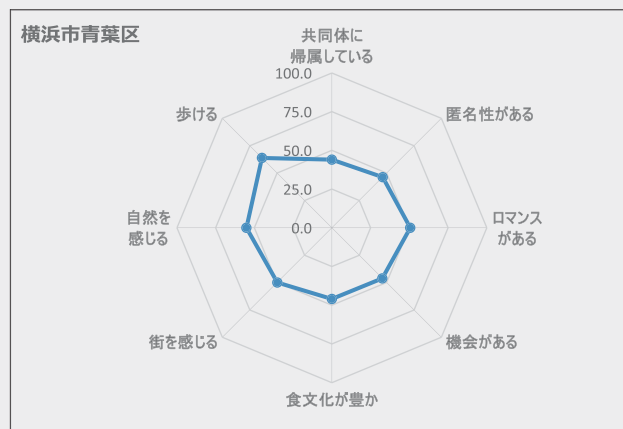
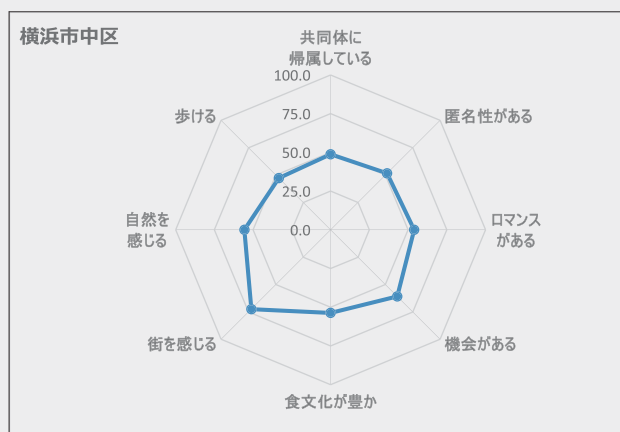
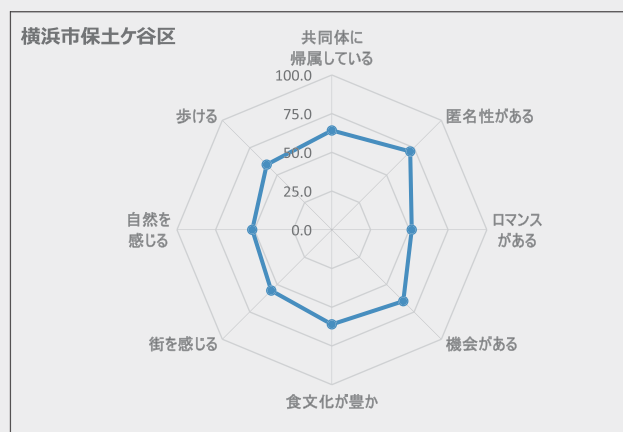
横浜市の都市のレーダーチャートを、いくつか掲載する。「横浜市青葉区」、「横浜市都筑区」は、センシユアス度では50位圏外である。

横浜市の中では、「横浜市保土ケ谷区」のセンシユアス度が最も高く、全体順位は13位である。『共同体に帰属している』、『匿名性がある』、『機会がある』、『食文化が豊か』が高いが、その中でも、「平日の昼間から外で酒を飲んだ」や「不倫のデートをした」などの『匿名性が高い』は全国で

も1桁の順位である。続く「横浜市中区」は、『街を感じる』が突出して高く、『機会がある』も高水準。

これに対して、たまプラーザのある「横浜市青葉区」は、『歩ける』が高い以外は平均前後のスコアであり、港北ニュータウンのある「横浜市都筑区」は、『街を感じる』や『自然を感じる』、『歩ける』が高いが、『機会がある』、『ロマンスがある』、『匿名性がある』は平均を大きく下回っている。この2つのエリアは、『共同体に帰属している』が平均よりも低いスコアであることも注目されよう。

図 23



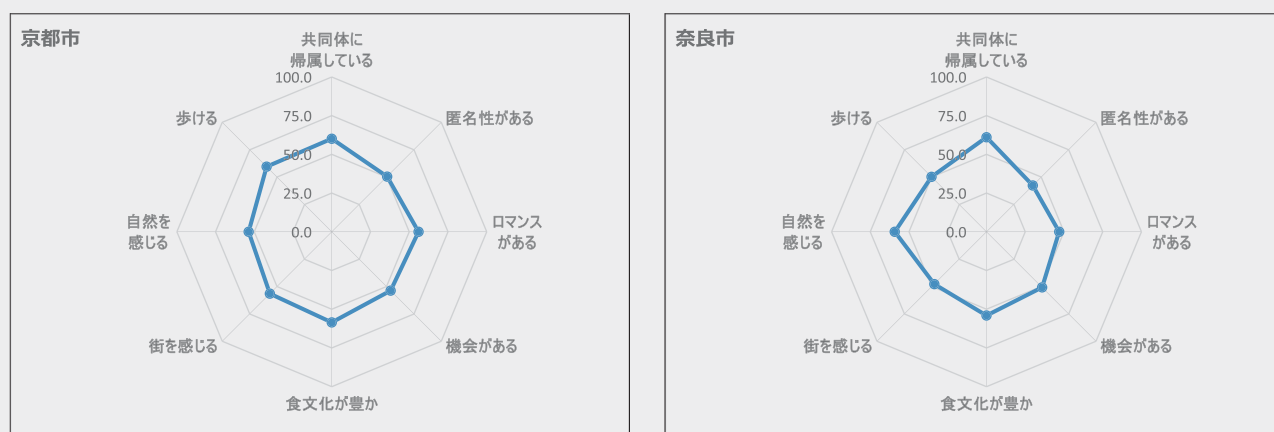
category 5 『京都市 vs 奈良市』

「京都市」「奈良市」の古都同士も比較してみた。「京都市」は、センシュアス度24位、「奈良市」は48位である。

「京都市」の場合、すべてのカテゴリーで平均を上回っているが、中でも『共同体に帰属している』、『食文化が豊か』、『歩ける』が高水準である。『ロマンスがある』や『街を感じる』なども、ある程度の水準をキープしており、バランスが取れ

ている。これに対して「奈良市」の場合、『共同体に帰属している』、『自然を感じる』は「京都市」よりも高い。一方で、『匿名性がある』や『ロマンスがある』、『街を感じる』は、全国平均を下回っており、レーダーチャートの形状もエッジが立っている。『歩ける』が低い点も目を引く。歴史がある都市同士とはいえ、その感覚のされ方は大きく異なるのである。

図 24



category 6 『地方都市』

いわゆる地方都市にはどのようなタイプがあるだろうか。図25の「金沢市」、「静岡市」、「盛岡市」、「那覇市」のレーダーチャートからわかるのは、『食文化が豊か』がセンシユアス度を上げる要因になっている都市が多いということだ。センシユアス度8位の「金沢市」の場合、まず、「地元でとれる食材を使った料理を食べた」、「地酒、地ビールなど地元で作られる酒を飲んだ」などの『食文化が豊か』が1位である。

しかし「金沢市」の場合、それだけではなく、『共同体に帰属している』、『機会がある』などが1桁順位であり、『ロマンスがある』も11位と高い。『街を感じる』が若干低い以外は、その他のカテゴリーも20位前後に位置する。強烈な強みをもち、その他の項目も総じて高水準、というタイプだ。

12位の「静岡市」もこのタイプである。『食文化が豊か』が高い（カテゴリー・ランキング6位）のに加え、「通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた」や「外で思い切り身体を動かして汗をかいだ」などの『歩ける』も平均を大きく上回る（カテゴリー・ランキング8位）。その他のカテゴリーも30位を下回るものではなく、高いレベルにスコアが揃う。センシユアス度14位の「盛岡市」、同19位の「那覇市」などもこのタイプといていい。

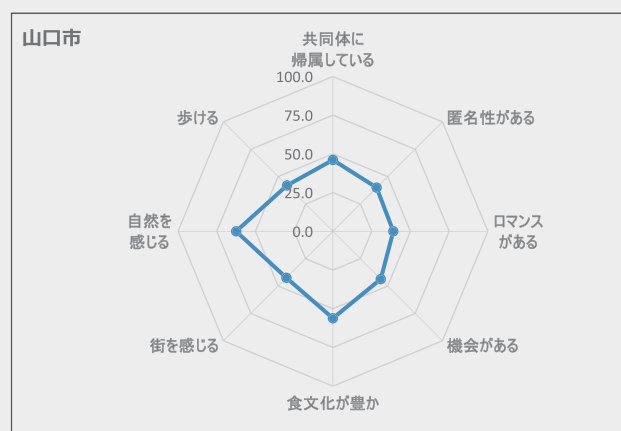
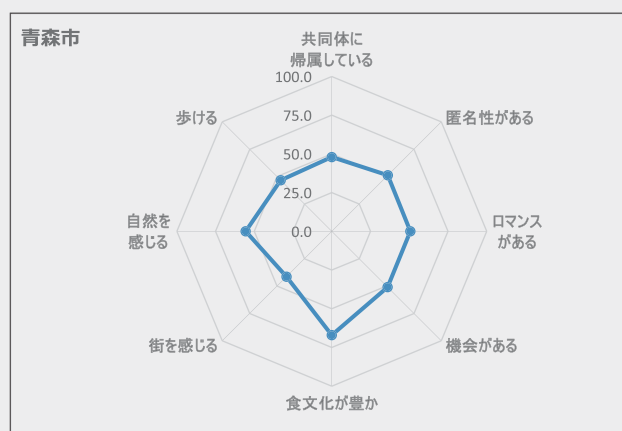
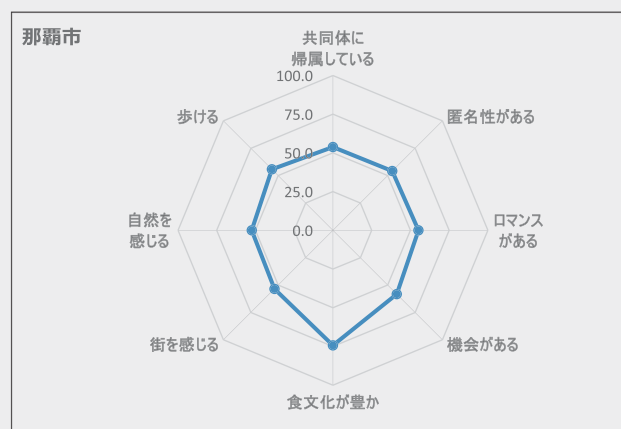
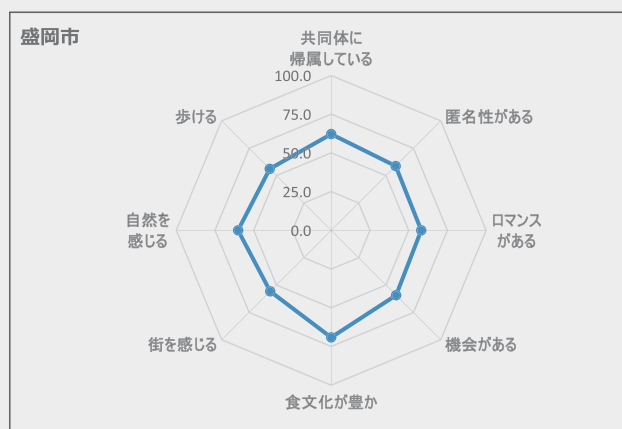
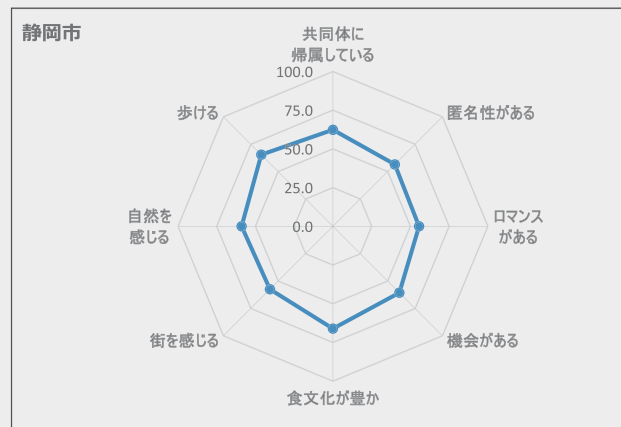
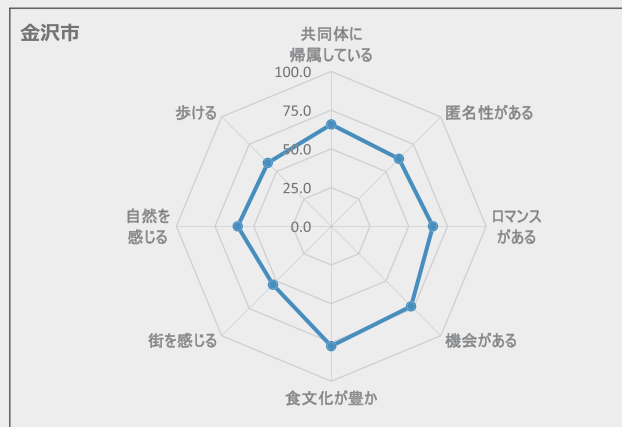
参考まで、センシユアス度49位の「青森市」と、50位圏外の「山口市」のデータも記載する。どちらも『食文化が豊か』と『自然を感じる』が全国平均を上回っているのだが、それ以外のカテゴリーのスコアが相対的に低いことがわかる。

地方都市の場合、『食文化が豊か』と『自然を感じる』が高めであるケースが多いため、この2つの分野だけが相応に高くても、センシユアス度全体の順位は上がらない。住んでいる人からも、ごく当たり前のこととして受容されている場合が多いのではないだろうか。

かといって、全方位的にセンシユアス度を上げる方向が得策とは限らない。参考になるのは、「那覇市」のデータだろう。センシユアス度上位の地方都市にあって、『共同体に帰属している』のスコアが例外的に低い。それでも、『食文化が豊か』は、「金沢市」に迫るほどの高水準であり、ここがセンシユアス度全体の高さを担保している。

ポイントは、現在の強みをどう突出させていくかという点にある。『自然を感じる』についても同様である。「自然」や「食」など、既にある強みに対する解像度を上げていく方向が、真剣に検討されてよいのではないだろうか。

図 25



3 センシュアス・シティ にある場所と都市のキャラクター

センシュアス度が高い都市には、どのような「場所」があるだろうか。あるいは、センシュアス度が高い都市は、どのような「キャラクター」の都市だろうか。また、センシュアス度と相関の強い「場所」や「キャラクター」とは、具体的にはどういうものがあるだろうか。

category 1 『都市にある「場所」』

ここでは、『飲食店』、『チェーン系』から、『公園・自然』まで、12 カテゴリー30項目の「場所」を提示し、「ある」と回答したスコアを、センシュアス度別に分析した。

まず、センシュアス度が高いほど、各場所の「ある」のスコアが高い項目が多い。特に、『飲食店』、『セレクト系』、『メジャー系』、『エッジ系』などは、全体値を大きく上回り、かつセンシュアス度が上がるについてスコアも上昇する項目がほとんどである。

このうち、全体値とのギャップが最も目立つのは『飲食店』であるが、具体的には、「小さな居酒屋や酒場が集まった横丁」や「有名な高級レストランや料亭」、あるいは「個人経営のこだわりのカフェ・喫茶店」などはセンシュアス度との相関も強い。センシュアス度の高い都市は、高級店や美食が楽しめるお店だけでなく、小さく个性的なお店や、その集積場所が多いことがポイントである。

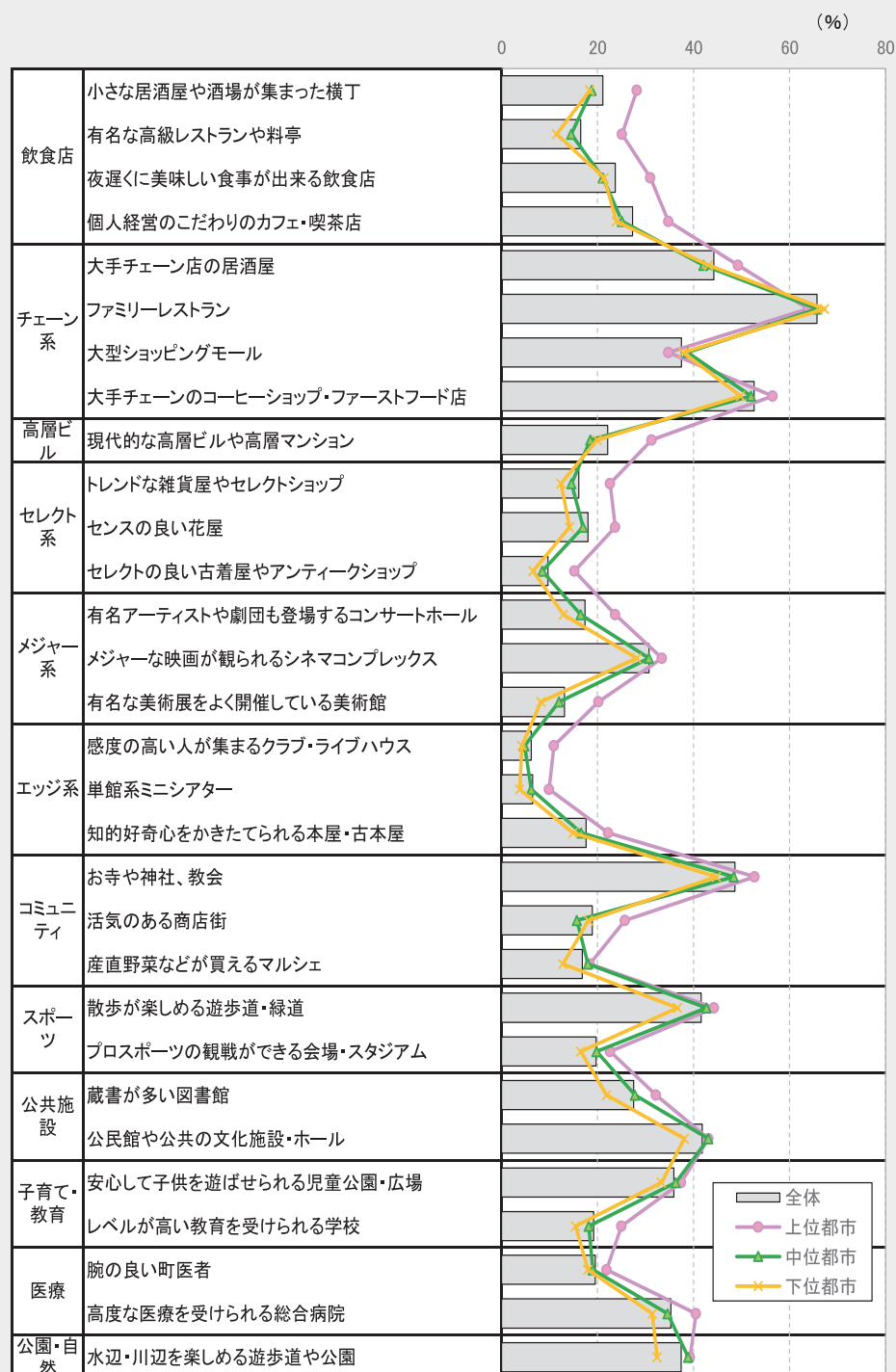
また、センシュアス度が高ければ『チェーン系』が少ないかといえばそうではない。「大手チェーンの居酒屋」、「大手チェーンのコーヒーショップ・ファーストフード」などは、センシュアス度・上位都市が最も高い。センシュアス度の高い都市には、さまざまな価格帯や時間帯、気の張り方などに対応できる飲食店が「ある」ということだろう。

注目すべきは、センシュアス度が高いからといって、必ずしも「ある」のスコアが高いとは限らないジャンルや場所があることだ。『チェーン系』の中の「ファミリーレストラン」や「大型ショッピングモール」は、むしろセンシュアス度・中位都市、下位都市のスコアが高い。また、『公共施設』の中の「公民館や公共の文化施設・ホール」も、センシュアス度・上位都市と中位都市とで差はみられない。つまり、「ファミリーレストラン」、「大型ショッピングモール」、「公民館や公共の文化施設・ホール」の有無と、センシュアス度との相関は低いのである。

図26

個別評価(場所)【ある】(全体／複数回答)

Q.あなたのお住まいから気軽に行けるエリアに、以下のような場所がありますか。ある場所をすべてお選びください。



5.0 ※「全体」より5ポイント以上高い
 3.0 ※「全体」より3ポイント以上高い
 -5.0 ※「全体」より5ポイント以上低い

全体	センシュアス度都市群別		
	センシュアス度・上位都市	センシュアス度・中位都市	センシュアス度・下位都市
(n=18300)	(n=4654)	(n=9063)	(n=4583)
21.1	28.2	18.8	18.4
16.5	25.1	14.5	11.5
23.7	31.0	21.1	21.4
27.3	34.8	25.1	23.9
44.2	49.3	42.1	43.1
65.7	63.9	65.8	67.3
37.5	34.8	38.7	37.8
52.6	56.5	52.0	49.8
22.1	31.3	18.5	19.9
16.1	22.6	14.6	12.4
18.0	23.7	17.0	14.2
9.7	15.2	8.5	6.6
17.4	23.7	16.5	12.9
30.7	33.4	30.7	28.2
13.1	20.2	12.0	8.2
6.2	10.9	4.8	4.2
6.5	9.9	6.2	3.8
17.6	22.2	16.6	14.9
48.6	52.7	48.4	44.8
18.9	25.7	15.7	18.1
16.8	18.4	18.0	12.8
41.6	44.3	42.7	36.7
19.7	22.6	19.8	16.5
27.5	32.2	27.8	21.9
41.8	43.1	43.1	38.1
35.9	37.4	36.3	33.3
19.2	25.0	18.2	15.4
19.5	21.9	19.0	18.0
35.3	40.5	34.6	31.4
37.4	39.3	38.9	32.4

category 2 『都市の「状態（キャラクター）」』

センシユアス度の高い都市は、どのように形容され、表現される街か。ここでは、11カテゴリー30項目に絞って、センシユアス度別の分析を行った。

センシユアス度・上位都市のスコアが総じて高くなっているが、特に、「住宅、オフィス、商店、飲食店が狭いエリアに混在している」、「古い建物と新しい建物が混在している」、「街の歴史を感じる風景・街並みが残っている」などの『街区・ロケーション』に属する項目、「必要な場所、行きたいところがコンパクトにまとまっている」などの『コンパクト』に属する項目、「年齢・職業・収入など多様な人が住んでいる」、「外国人がたくさん住んでいる」などの『多様性』に属する項目が際立って高いのが特徴である。また、これらの項目のほとんどが、センシユアス度との相関が強い。

このうち、『街区・ロケーション』のキー・ワードは“混在”である。「入り組んだ小さな路地が多い」も含めて考え合わせると、センシユアス度の高い都市では、古い建物と新しい建物の混在、新鋭と歴史の混在、用途の多様性が実現しているといえるだろう。

“混在”は、建物や物理的条件だけにとどまらない。そこ

に暮らす人々の多様なあり方が担保されているようだ。センシユアス度・上位都市は、「年齢・職業・収入など多様な人が住んでいる」、「外国人がたくさん住んでいる」など、さまざまな人が暮らしていることは既にみたが、『労働市場』の「夫婦共働きがしやすい」、「自分に合った仕事・職場を見つけやすい」などのスコアも高く、暮らし方のフレキシビリティが担保されていることも注目できよう。キー・ワードは“多様性”である。

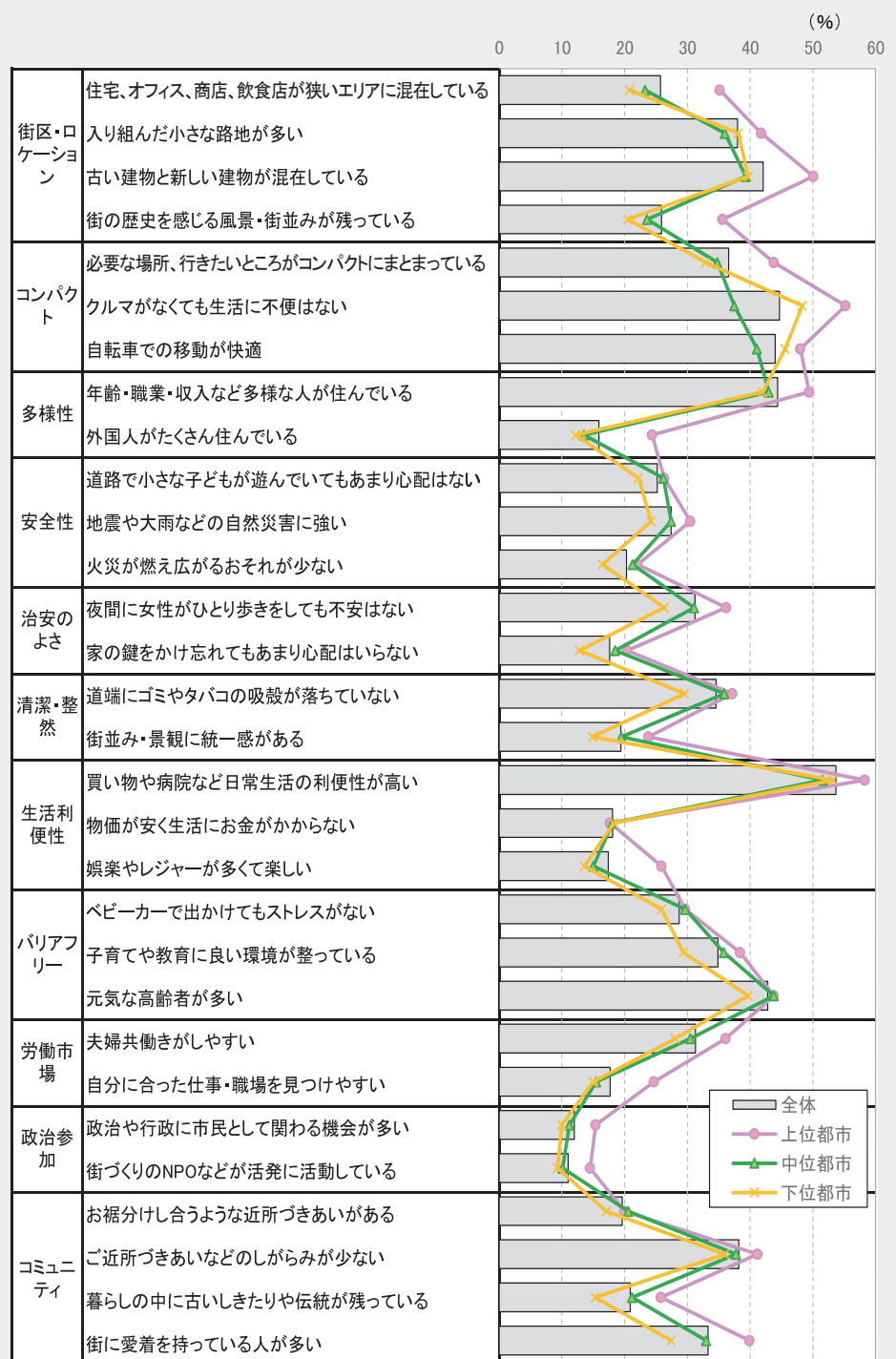
なお、『街区・ロケーション』と並んでセンシユアス度・上位都市のスコアが高かった『コンパクト』だが、「クルマがなくても生活に不便はない」や「自転車での移動が快適」については、センシユアス度・中位都市のスコアが最も低い。つまり、センシユアス度とコンパクトであることは相関が弱いのである。都市はコンパクトであれば良いという、単純な構造にはないことがわかる。

同様に、センシユアス度との相関が弱いのが、「買い物や病院など日常生活の利便性が高い」、「物価が安く生活にお金がかからない」などである。

図 27

個別評価(状態)【あてはまる・計】(全体／各単一回答)

Q.あなたの住まいの近隣の地域は、どのようなところですか。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。



5.0 ※「全体」より5ポイント以上高い
 3.0 ※「全体」より3ポイント以上高い
 -5.0 ※「全体」より5ポイント以上低い

全体	センシユアス度都市群別		
	センシユアス度・上位都市	センシユアス度・中位都市	センシユアス度・下位都市
(n=18300)	(n=4654)	(n=9063)	(n=4583)
25.7	35.2	23.3	20.8
38.0	41.8	36.0	38.1
42.1	50.1	39.3	39.7
25.9	35.6	23.6	20.5
36.6	43.8	34.8	32.9
44.7	55.2	37.5	48.3
44.0	48.0	41.1	45.6
44.4	49.4	43.0	42.0
15.9	24.4	13.5	12.2
25.2	26.3	26.2	22.2
27.4	30.5	27.4	24.2
20.3	22.1	21.3	16.5
31.2	36.2	31.1	26.3
17.6	20.4	18.5	12.8
34.6	37.2	35.9	29.6
19.4	23.8	19.5	14.9
53.7	58.3	51.6	53.2
18.1	17.7	18.1	18.3
17.4	25.9	15.0	13.6
28.7	29.7	29.7	25.9
34.9	38.4	35.8	29.4
42.8	43.8	43.8	39.7
31.3	36.1	30.5	28.1
17.7	24.7	15.5	15.0
12.0	15.4	11.2	10.0
11.0	14.5	10.1	9.3
19.6	20.0	20.6	17.1
38.2	41.2	37.8	36.0
20.9	25.8	21.2	15.3
33.3	39.9	33.0	27.4

3-3

センシュアス・シティには どのような人が住んでいるか

1 センシュアス・シティに住む人の特徴

category 1 「個人志向」 vs 「共同体志向」

ここでは、個人の価値観を浮き彫りにするため、「個人志向」を示すと考えられる選択肢と、「共同体志向」を表すと考えられる選択肢を8つずつ提示し、それぞれの当てはまり度を5段階（「強くそう思う」から「全くそう思わない」）で質問した。「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせた「そう思う・計」のスコアをみていく。センシュアス度別にみた場合、「個人志向」と「共同体志向」とはどのように混在しているだろうか。

「個人志向・計」（図28-1）をみると、センシュアス度が上がるにつれてスコアも上がる。「共同体志向・計」（図28-2）も同様だが、特にセンシュアス度・下位都市の低さが目立つ。

「個人志向」「共同体志向」とも「そう思わない・計」のスコアも確認したが、ほぼ上記と逆の関係になる。つまり、センシュアス度・上位都市では二極化傾向があり、それを

強く表明する人が多いが、センシュアス度・下位都市では「共同体志向」が弱い、ということがいえそうだ。

なお、個々の選択肢自体の差は微差であり、センシュアス度とリニアな関係にある項目はそれほど多くないが、「個人志向」より「共同体志向」において、「センシュアス度が上がればスコアも上がる」項目が多いことは注目してもいいだろう。例えば、「個人志向」の選択肢の中では、「格差や貧困は個人の自己責任であって、社会の問題にするのはおかしい」だけが、センシュアス度が上がるとスコアも上がる。「共同体志向」の選択肢の場合、「仲間と一緒に何かを作り上げていきたい」、「向こう三軒両隣、昔の長屋のような暮らしが理想だ」、「古い伝統や監修には何かしら重要な意味があるから従うほうがいい」などの4項目が、センシュアス度が上がるとスコアも上昇するという関係にある。

図 28-1

■ タイプ分類項目2個人の生き方【そう思う・計】(全体／各単一回答)

Q.「個人の生き方」に関する以下の考え方について、あなたはどのように思いますか。

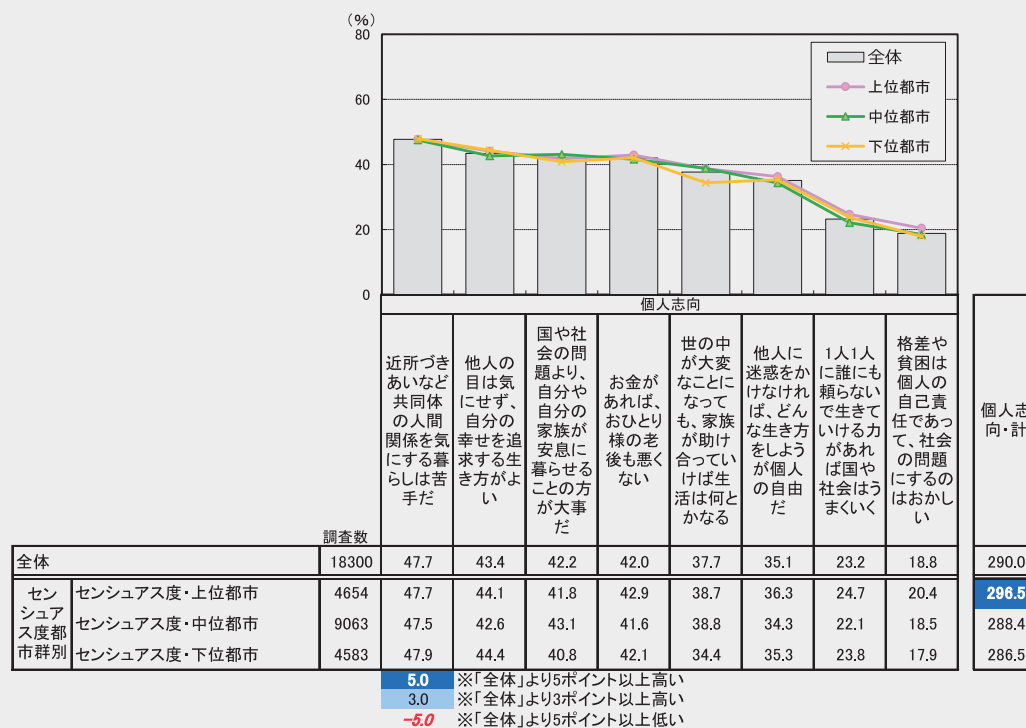
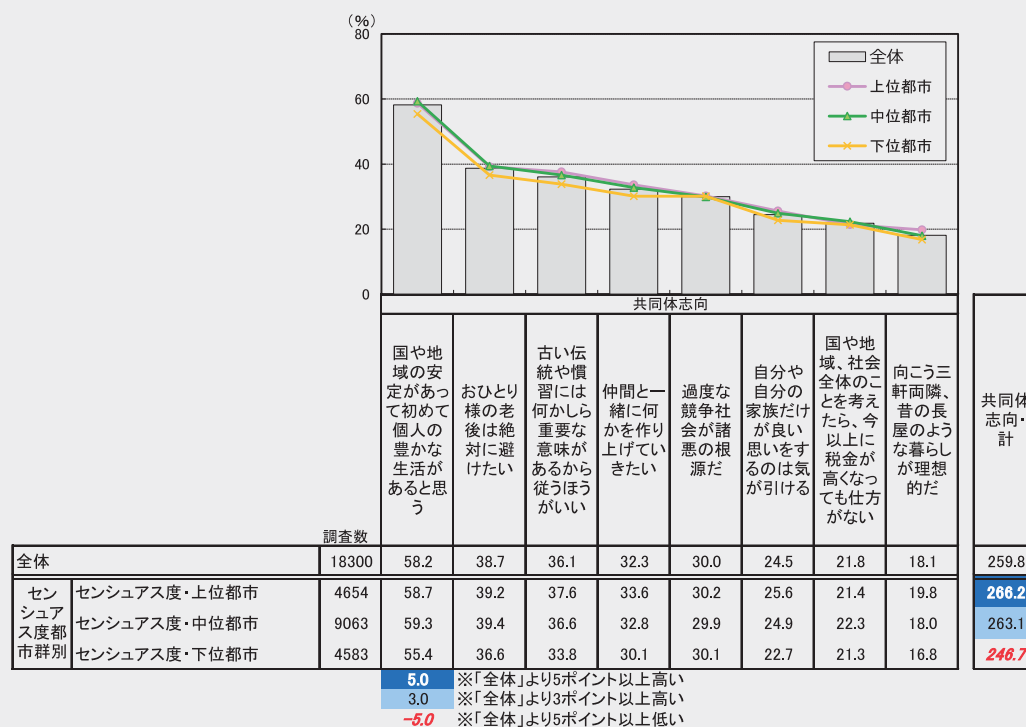


図 28-2

■ タイプ分類項目2個人の生き方【そう思う・計】(全体／各単一回答)

Q.「個人の生き方」に関する以下の考え方について、あなたはどのように思いますか。



category 2 「移動志向」 vs 「定住志向」

次に、「移動志向」と「定着志向」を表すと考えられる項目をそれぞれ8つずつ提示し、前項と同様に分析した。

センシユアス度別に明快な傾向がみられるのは、「移動志向」(図29-1)である。提示した8項目のうち、「自分の生まれ育った場所にこだわらず気に入ったところに住みたい」を除く7項目で、センシユアス度が上がればスコアも上がるという関係がみられる。「そう思わない・計」では、センシユアス度が低いほどスコアが上昇するという逆の関係が確認できることから、センシユアス度が高い都市ほど「移動志向」を持つ人が多いということがいえる。

一方、「定着志向・計」が最も高いのはセンシユアス度・

中位都市であり、センシユアス度とリニアな関係にはない(図29-2)。ここで目立つのはセンシユアス度・下位都市の「定着志向・計」の低さである。「そう思わない・計」は、実はセンシユアス度・上位都市の方が高く、必ずしもセンシユアス度が低いほど「定着志向」が弱いとはいえないのだが、センシユアス度・中位都市のスコアは上回っており、「定着志向」には若干ネガティブな態度の人が多くことがうかがえる。例えば、「今の生活スタイルや環境を変えたくない」や「その土地や共同体の歴史や伝統を守って暮らすのが理想」といった選択肢に対する反応が鈍い。

図29-1

■ タイプ分類項目4住む場所【そう思う・計】(全体／各単一回答)

Q.「住む場所」に関する以下の考え方について、あなたはどのように思いますか。

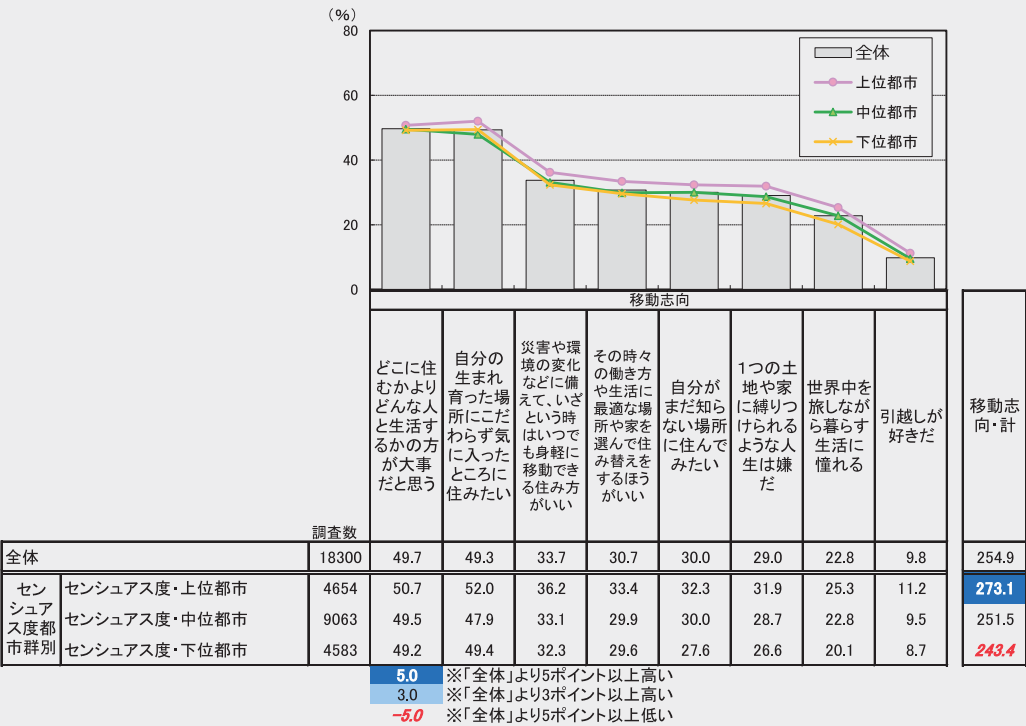
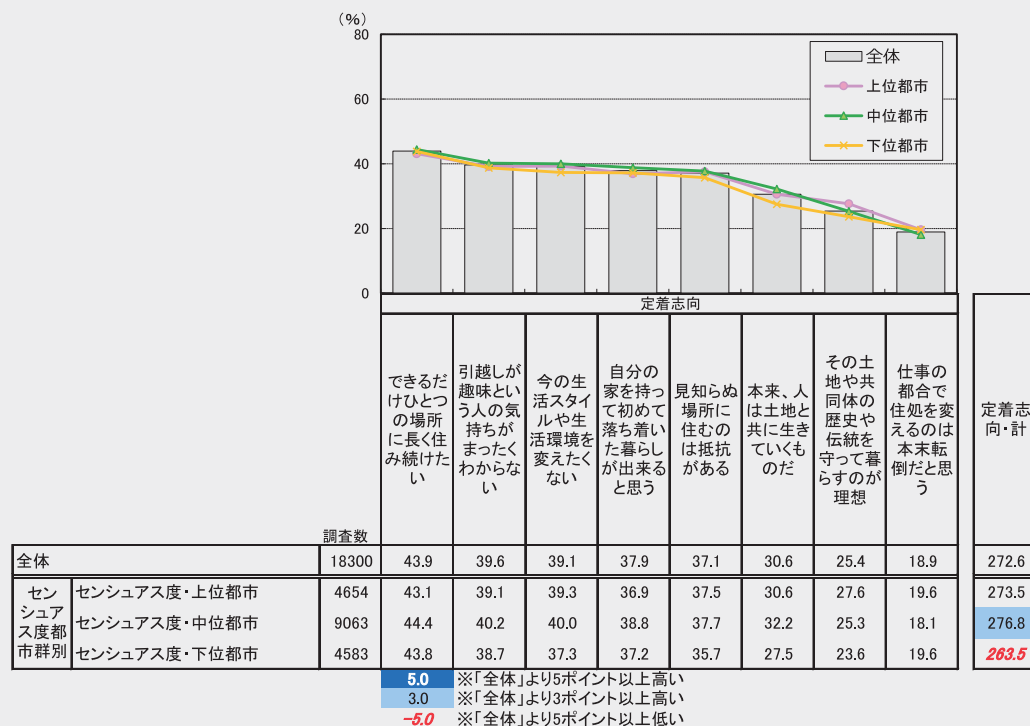


図 29-2

■ タイプ分類項目4住む場所【そう思う・計】(全体／各単一回答)

Q.「住む場所」に関する以下の考え方について、あなたはどのように思いますか。



category 3 会社外の友人数

センシユアス度の高い都市では、「会社外の友人数」も多い。平均人数は3.26人であり、「0人」のスコアも33.7%にとどまる。先に、センシユアス度・上位都市の「共

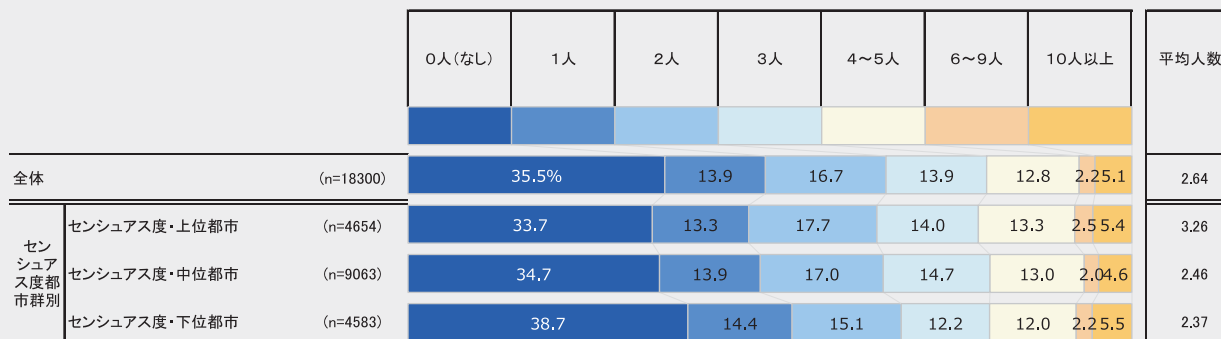
同体志向」、例えば「仲間と一緒に何かを作り上げていきたい」などのスコアの高さを確認したが、現実の会社外の友人数も多いのである。

図 30

■ 会社外友人数(平均に0を含む)(全体／単一回答)

Q.今住んでいる地域に、愚痴や悩みを話せるような親しい友人は何人いますか。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。

(人)



category 4 寛容度

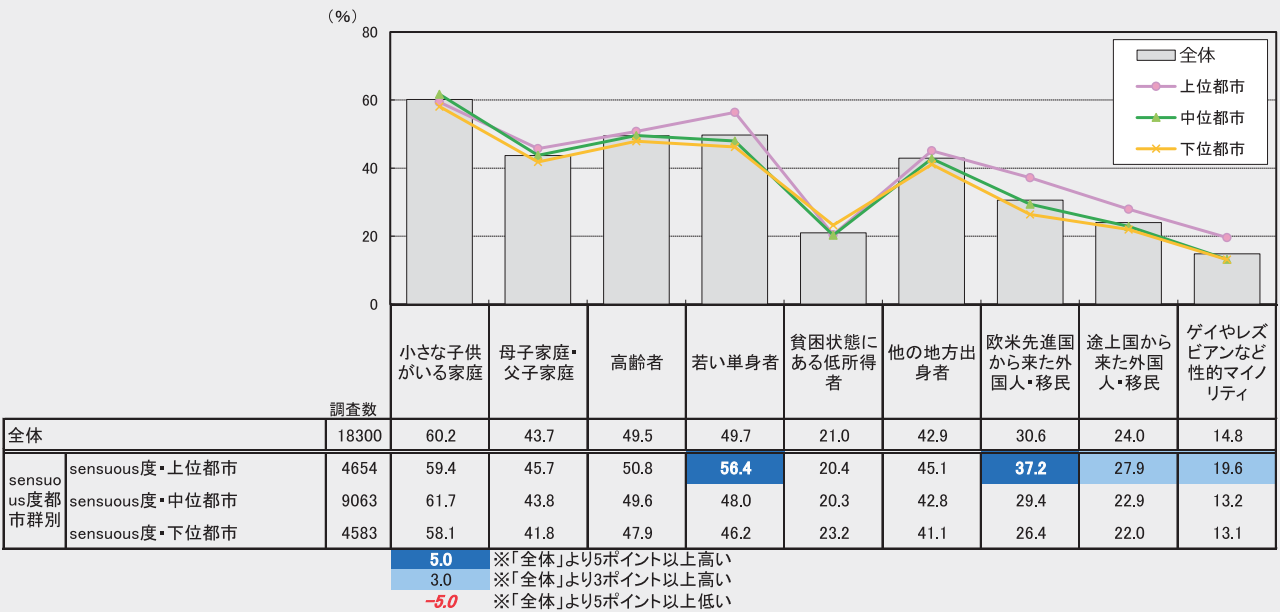
さらに注目したいのが、特定層に対する寛容度である。センシユアス度が高い都市に住む人ほど、“少数派”が「住みやすいと思う」と回答した比率（「住みやすいと思う・計」＝「とても住みやすいと思う」と「ある程度住みやすいと思う」のスコアの合計値）が高い。「小さな子供がいる家庭」は

センシユアス度との相関はみられないが、その他の項目は、すべてセンシユアス度が上がるとスコアも上がる関係にある。中でもセンシユアス度・上位都市の場合、「若い単身者」、「欧米先進国から来た外国人・移民」については突出して「住みやすいと思う・計」のスコアが高くなっている。

図 31

■ 多様性受容度(住みやすさ)【住みやすいと思う・計】(全体／各単一回答)

Q8.あなたが暮らしている地域は、以下に上げる人々にとって、どの程度住みやすいと思いますか。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。



category 5 総合評価－幸福度と満足度、WHO-5

この項の最後に、総合指標である「幸福度」、「満足度」をみると、ともにセンシユアス度が上がると平均評価点が上昇する関係にある。センシユアス度・上位都市では、特に「10点」から「8点」までを回答した人の割合が5割に届くかという水準である。

WHO-5の「13点以上」の比率をみると、センシユアス

度・上位都市では67%であるが、センシユアス度が下がるにつれてスコアも減少し、センシユアス度・下位都市では61%である。

総じて、センシユアス度が高いほど、ご機嫌な人が多く、幸福感、満足感とも高くなるといえよう。

図 32-1

■ 総合評価①幸福度(全体／単一回答)

Q.あなたは、いまの地域に住んでどの程度幸せを感じていますか。「とても幸せだ」を10点、「まったく幸せではない」を0点とした場合、何点くらいになるかを教えてください。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。

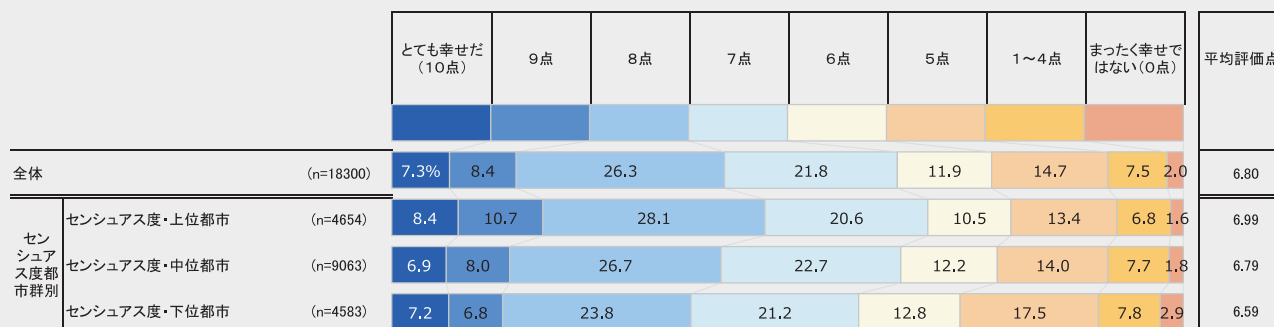


図 32-2

■ 総合評価②満足度(全体／単一回答)

Q.あなたはお住まいの地域にどの程度満足していますか。「非常に満足している」を10点、「まったく満足していない」を0点とした場合、何点くらいになるかを教えてください。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。

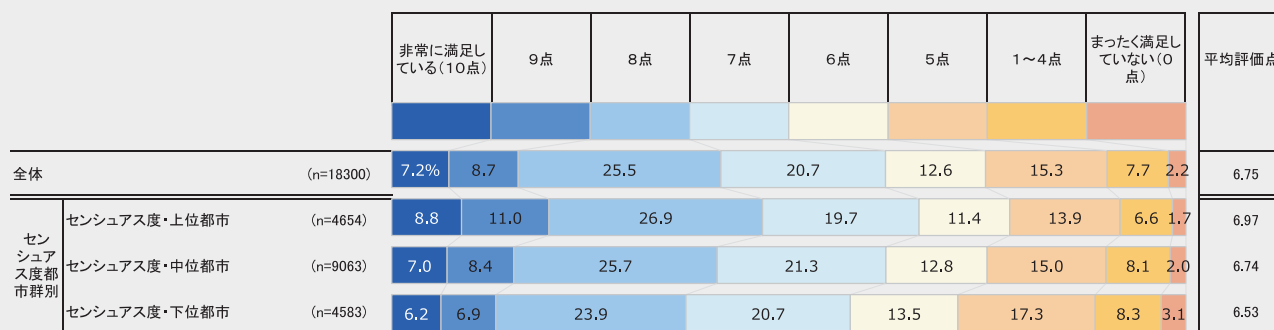
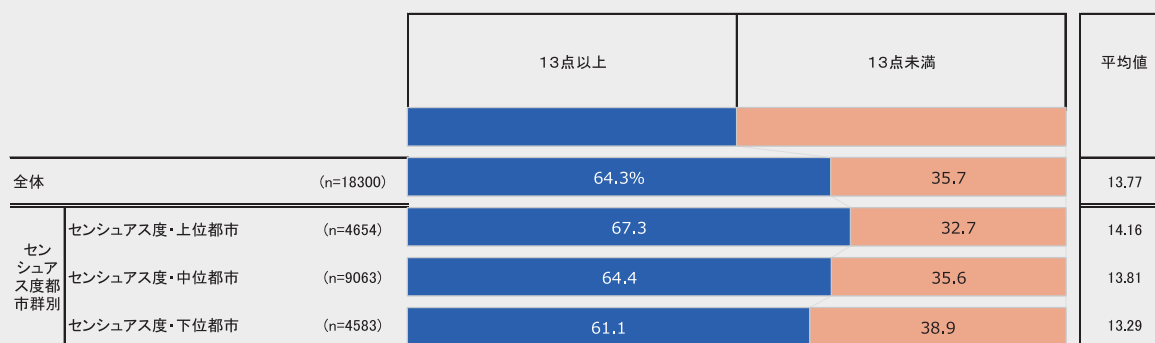


図 32-3

■ WHO-5項目【合計】(全体／単一回答)

Q.以下にあげる5つの状態は、最近1年間、どの程度ありましたか。



センシユアス度と総合指標（「幸福度」「満足度」）との関係

ここでは、センシユアス度と総合指標との関係をみていく。今回の調査の設計思想に即して言えば、主観データ（総合指標）と主観データ（個別評価の積み上げ）との間に相関があるかどうかを確認することが目的である。

category 1 センシユアス度と総合指標

まず、総合指標に「幸福度」をおいた場合の結果を図33に示す。横軸はセンシユアス度、縦軸は「幸福度」の平均点で各都市をプロットした。

両者の相関係数は0.4351であり、通常「相関がある」と判断する0.4以上のスコアをマークしている。それぞれのデータ分布は図33を確認していただきたいが、目だった異常値もないことから、「センシユアス度が高ければ、そこに住むことの幸福度も高い」関係がみられるのである。

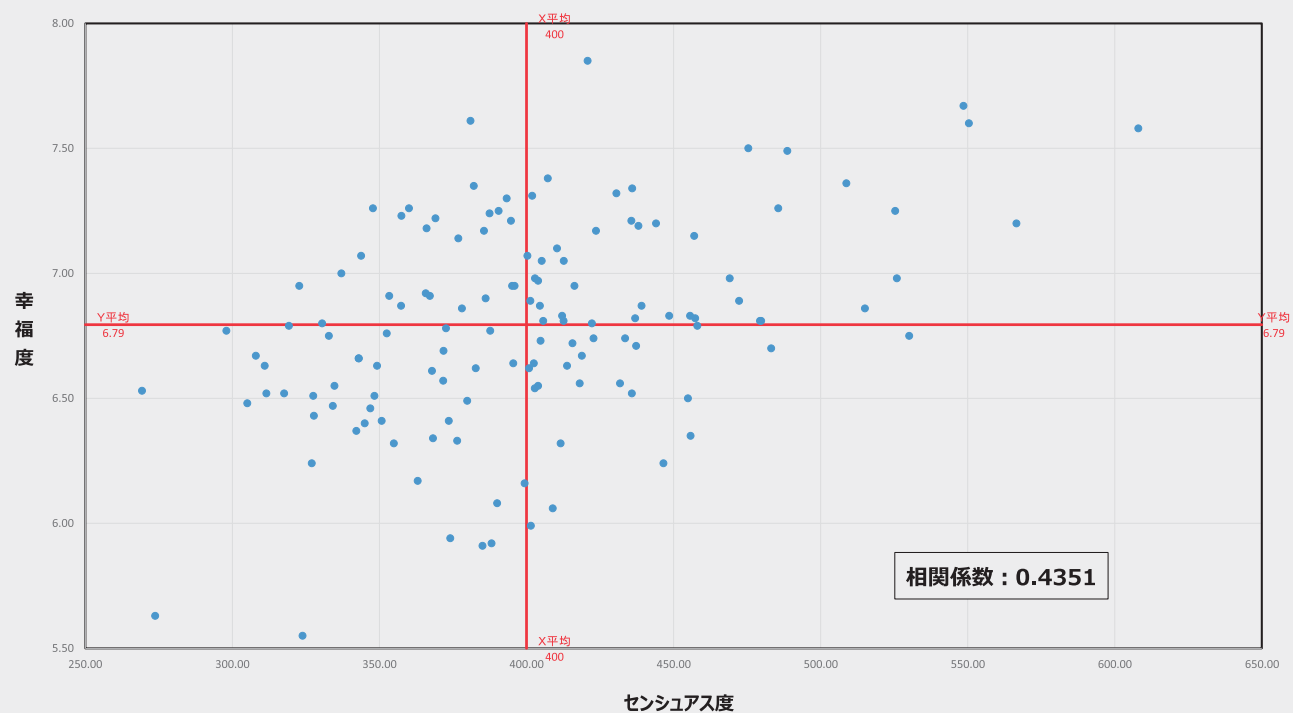
先にみた通り、幸福度はさまざまな要因で構成されるはずだ。世帯年収や家族構成、雇用形態など、いわゆる基本的属性の影響も強いことが予想できる。

その中で、センシユアス度と幸福度のみの関係に絞った分析においても、高い相関がみられることは注目に値する。

総合指標に「満足度」をおいても結果は同様である。図34は、「幸福度」と同じく、「満足度」の平均点とセンシユアス度のスコアで各都市をプロットしたものである。センシユアス度と「満足度」の相関係数のスコアは「幸福度」の場合よりも上昇し、0.4585である。

「満足度」の性質上、「幸福度」よりもより具体的な生活シーンの影響を受けていることは予測していたが、相当に高いスコアであるといえるだろう。

図33



category 2 客観×観測データと総合指標との関係

なお、今回の調査で客観×観測データを用いなかった理由について、先に詳述した関係上、都市を評価する客観データと主観データとの相関係数も算出し、確認した。

使用した客観データは、週刊東洋経済の『住みよさランキング2014年度』の総合偏差値である。総合偏差値は、「安心度」、「利便度」、「快適度」、「富裕度」、「住居水準充実度」の5カテゴリー・15の客観データ指標を設定し、それぞれの指標を偏差値化したうえで、その平均を算出したものである。

一方、主観データは、今回の我々の調査の「幸福度」と「満足度」を採用した。つまり、客観×観測データによる総合指標と、主観×申告データによる総合指標同士の相関分析となる。

その結果を図35に示す。相関係数は、主観データが「幸

福度」の場合は-0.016、「満足度」の場合は-0.035であり、ほぼ無相関という結果になった。

この結果をもって、一気に「客観データと主観データとは乖離する」と主張するのは無謀である。『住環境』（浅見泰司編）でも繰り返し指摘されている通り、客観指標の取舍選択、ブラッシュアップの余地は常に残るし、個々の指標を丁寧に吟味するプロセス（例えば、「污水处理人口普及率」という個別指標自体と、総合指標との相関分析など）も不可欠である。

ただ、客観データ算出が、その目的にとって無意味になる可能性があること、住む人々の実感値とのズレを無視したままの施策を誘導しかねないこと、程度は指摘できるのではないだろうか。

図35-1

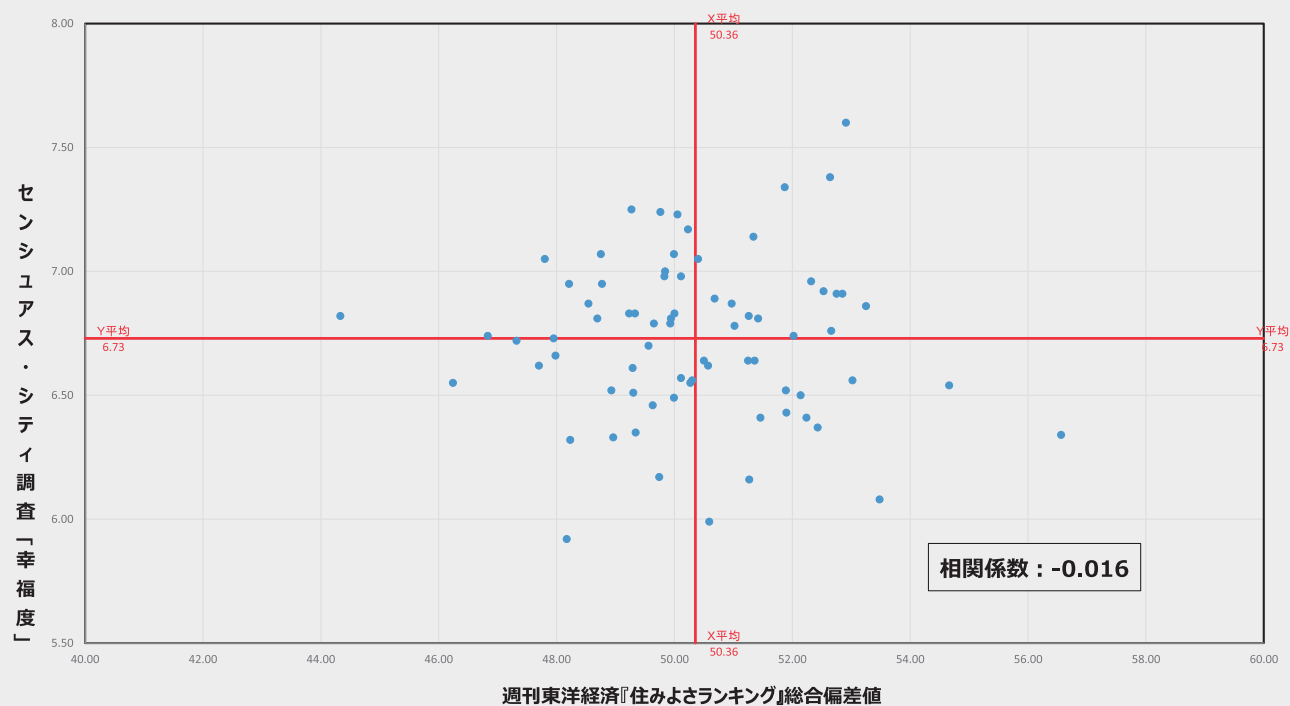
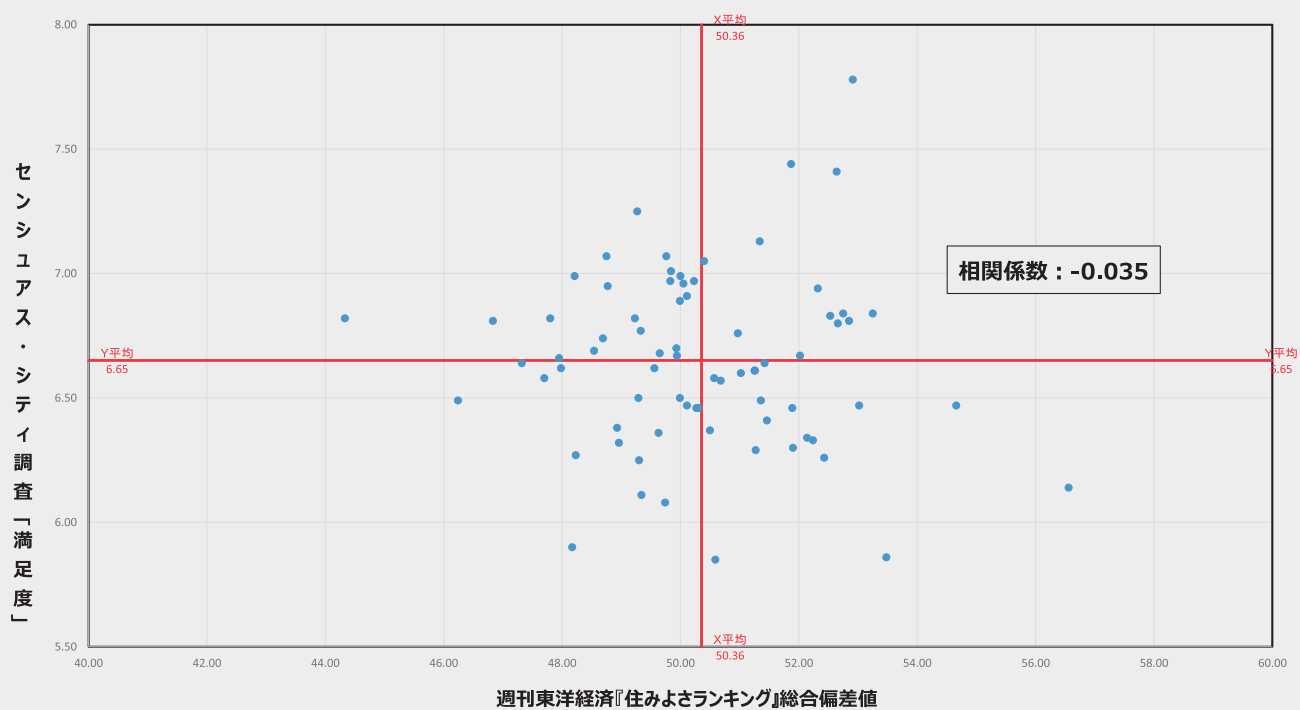


図35-2



3-4 センシュアス・シティと住み替え意向

センシュアス度が高い都市とそうでない都市とで、住み替え意向に差はあるだろうか。
また、住み替えたい希望の内容にどのような差がみられるだろうか、というのが、本項の問題意識である。

category 1 住み替え意向

「ぜひ住み替えをしたい」と「いずれ住み替えたいと考えている」を合計した「意向あり・計」をセンシュアス度別にみると、大きな差はみられないが、センシュアス度・上位

都市とセンシュアス度・下位都市とでわずかながら「意向あり・計」のスコアが高くなっている。

図36

■ 住み替え意向(全体／単一回答)

Q.今住んでいる家から今後住み替える意向はありますか。

			意向あり・計					意向あり・計
			ぜひ住み替えをしたい	いずれ住み替えたいと考えている	どちらともいえない	あまり住み替えるつもりはない	住み替えない(ずっと今の家に住む)	
全体 (n=18300)			9.7%	24.4	25.5	22.9	17.5	34.1
センシュアス度都市群別	センシュアス度・上位都市 (n=4654)		9.7	25.2	26.9	22.5	15.8	34.9
	センシュアス度・中位都市 (n=9063)		9.3	23.1	25.2	23.7	18.6	32.5
	センシュアス度・下位都市 (n=4583)		10.4	26.0	24.7	21.9	17.0	36.4

category 2 住み替え希望エリア

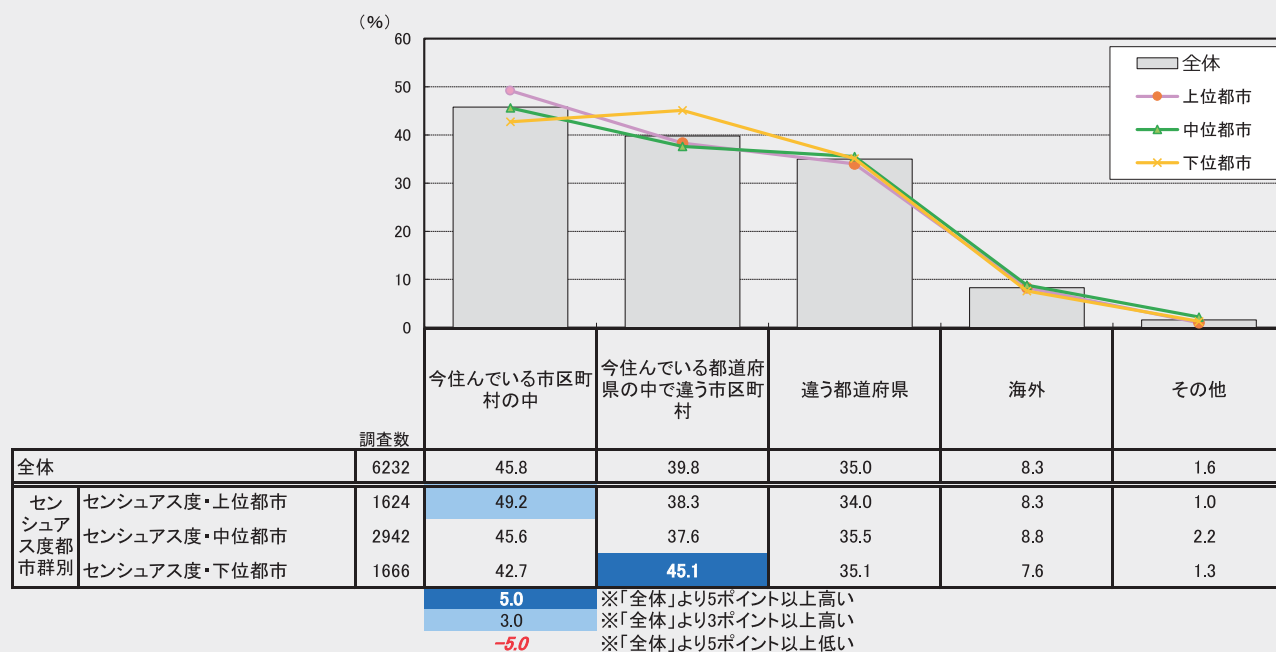
ところが、住み替え希望エリアにおいては差がみられる。センシユアス度・上位都市では「今住んでいる市区町村の中」が5割程度を占めて高いのに対し、センシユアス度が

低くなるにつれて同スコアが下がるのである。センシユアス度は、住み替えそのものには無関係だが、同一エリア内に引きとめる“効果”はありそうである。

図37

■ 住み替え希望エリア(住み替え意向者／複数回答)

Q14.もし今後住み替えするとしたら、どのような地域を希望しますか。※「地域」とは、自宅がある市区町村を中心に、主な生活圏のことを指します。



category 3 住み替え時・戸建てvsマンション／持家vs賃貸／新築vs中古

住み替える場合の、希望の住居形態にも差がみられる。「戸建てかマンションか」について、センシユアス度・上位都市では、「非・戸建てこだわり派」が多い。

また、センシユアス度が高い都市ほど、「非・持家こだわり派」および「非・新築こだわり派」のスコアが高いことが

わかる。

劇的な差がみられるわけではないが、センシユアス度の高い都市の住み替え意向者は、戸建て×持家×新築という旧来型のパッケージを希望する人が少なめである、ということはいえそうだ。

図38-1

■ 住み替え時・戸建vsマンション(住み替え意向者／単一回答)

Q.今後もし住み替えることがあれば、一戸建てにしますか、マンションにしますか。

		心情戸建て派		心情マンション派			絶対戸建て派	非・戸建てこだわり派	心情戸建て派	心情マンション派
		絶対戸建て派	できれば一戸建てがいいが、マンションでもよい	できればマンションがいいが、一戸建てでもよい	ぜったいマンション	こだわらない				
全体		(n=6232)	16.2%	26.0	17.0	13.5	20.9	6.3	16.2	77.5
センシユアス度都市群別	センシユアス度・上位都市	(n=1624)	14.5	23.5	17.8	15.3	24.0	4.8	14.5	80.7
	センシユアス度・中位都市	(n=2942)	17.0	26.7	16.7	11.9	21.0	6.6	17.0	76.4
	センシユアス度・下位都市	(n=1666)	16.6	27.2	16.5	14.6	17.8	7.2	16.6	76.1

図38-2

■ 住み替え時・持家vs賃貸(住み替え意向者／単一回答)

Q.今後もし住み替えることがあれば、住まいは持家がいいですか、賃貸がいいですか。

		持家こだわり派		非・持家こだわり派			持家こだわり派	非・持家こだわり派
		ぜったい持家	できれば持家がいいが、賃貸でもよい	できれば賃貸がいいが、持家でもよい	ぜったい賃貸	こだわらない		
全体		(n=6232)	25.4%	32.7	9.0	9.1	17.8	6.0
センシユアス度都市群別	センシユアス度・上位都市	(n=1624)	24.7	31.4	10.0	8.4	20.7	4.8
	センシユアス度・中位都市	(n=2942)	25.5	32.1	8.9	9.3	17.6	6.6
	センシユアス度・下位都市	(n=1666)	26.0	35.0	8.3	9.4	15.1	6.2

図38-3

■ 住み替え時・新築vs中古(住み替え意向者／単一回答)

Q17.今後もし住み替えることがあれば、新築がいいですか、中古がいいですか。

		新築こだわり派		非・新築こだわり派			新築こだわり派	非・新築こだわり派
		ぜったい新築	できれば新築がいいが、中古でもよい	できれば中古がいいが、新築でもよい	ぜったい中古	こだわらない		
全体		(n=6232)	17.9%	43.4	6.9	1.8	25.6	4.3
センシユアス度都市群別	センシユアス度・上位都市	(n=1624)	17.1	44.6	6.1	0.9	28.0	3.3
	センシユアス度・中位都市	(n=2942)	17.9	42.2	6.7	2.2	26.0	5.0
	センシユアス度・下位都市	(n=1666)	18.7	44.4	7.9	2.1	22.8	4.1

